

## システムソフト / 画面転送コントロールソフト / システムアシストソフト 先生用操作マニュアル

品番 WE-AS860 / AS861 / AS862

### もくじ

はじめに .....	3
<制御パソコン編>	
第1章 授業を行う .....	10
第2章 授業モード .....	67
第3章 管理機能 .....	93
第4章 オープンルーム .....	113
第5章 画面転送機能（拡張機能） ..	118
<先生パソコン編>	
操作方法 .....	128
<補助制御パソコン編>	
操作方法 .....	146
付録 .....	149

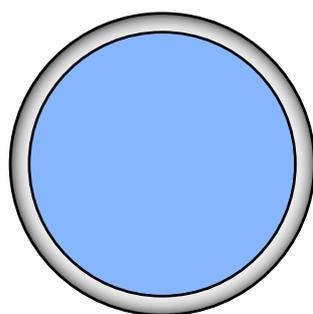
本書で説明するソフトウェアは、使用許諾契約書に基づいて提供され、その内容に同意する場合にのみ使用することができます。

本書に記載された内容は、情報の提供のみを目的としており、予告なしに変更されることがあります。また、本書には正確な情報を記載するように努めましたが、誤りや不正確な記述があった場合にも、松下電器産業株式会社（Matsushita Electric Industrial Co., Ltd.）はいかなる責任、責務も負わないものとします。

-----  
© 2003 Matsushita Electric Industrial Co.,Ltd. All Rights Reserved.

本書の著作権は、松下電器産業株式会社に帰属します。本書の一部あるいは全部を許可なく複製・複写することを禁じます。

- L3 Stageは、松下電器産業株式会社の商標です。
- AdobeおよびAcrobat Readerは、Adobe Systems Incorporatedの商標です。
- Microsoft、WindowsおよびWindowsロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Microsoft Excelは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。



# はじめに

## もくじ

商品概要 .....	4
本書について .....	6
本書の構成 .....	6
本書で使用している用語について .....	7
略称について .....	9

## 商品概要

システムソフト（WE-AS860）・システムアシストソフト（WE-AS862）は、学内パソコン教室、LAN環境においてパソコンを最大限に活かした語学学習、情報リテラシーの学習をサポートするための授業支援ソフトです。

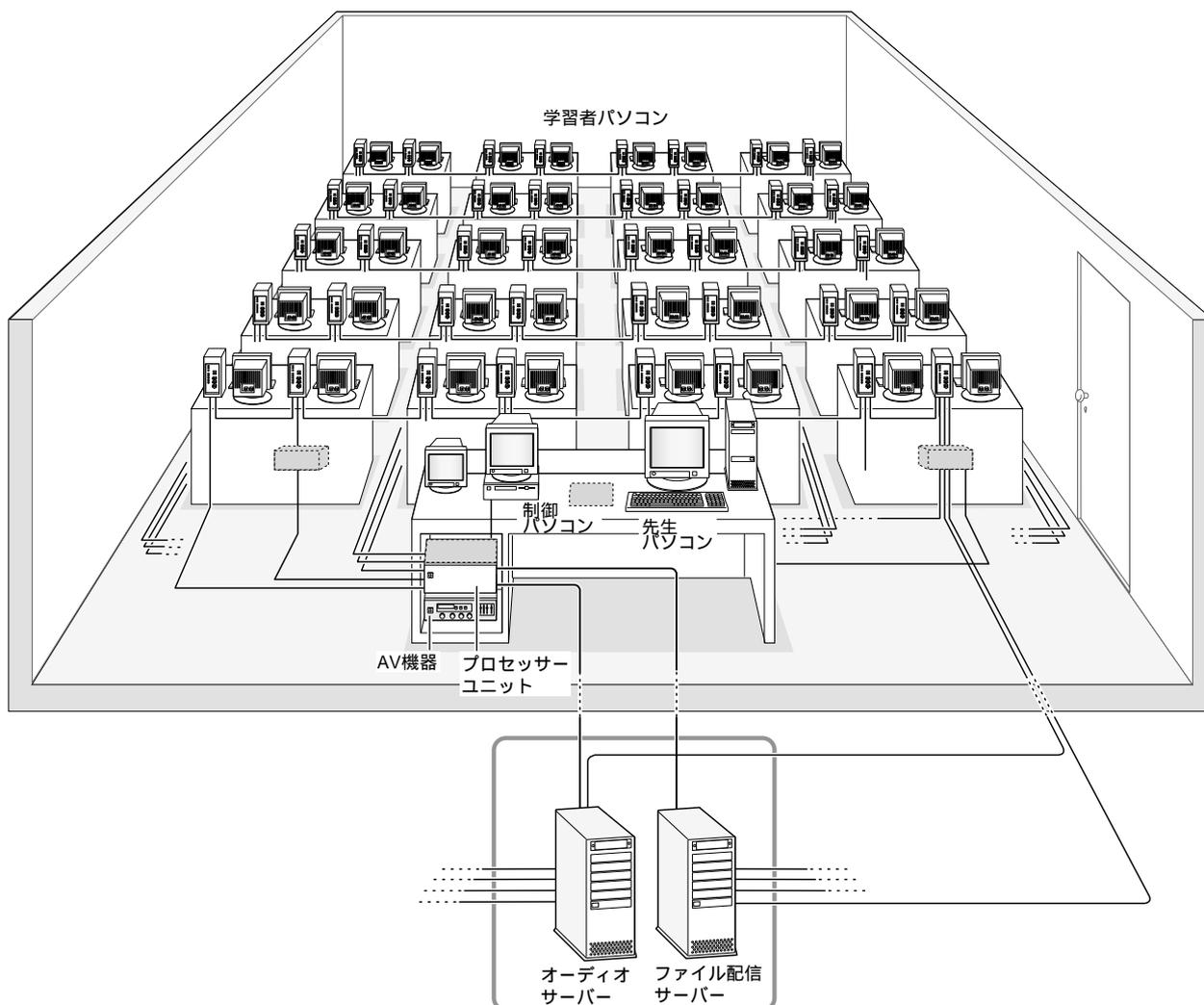
学習者の出席確認から会話練習、教材を使った授業、テスト形式の授業などをタッチパネルによる簡単な操作で行うことができます。

画面転送コントロールソフト（WE-AS861）は、マルチメディア授業支援システムのシステムソフトと株式会社アイ・ディ・ケイ社製 EdViNS2 システムを使用して、制御パソコンから指定した学習者パソコンの映像を先生側でモニターしたり、AV教材映像を学習者パソコンの画面に表示することができます。

WE-AS862をセットアップした場合のみの機能は、以降（AS862）と表します）

### ●標準システム

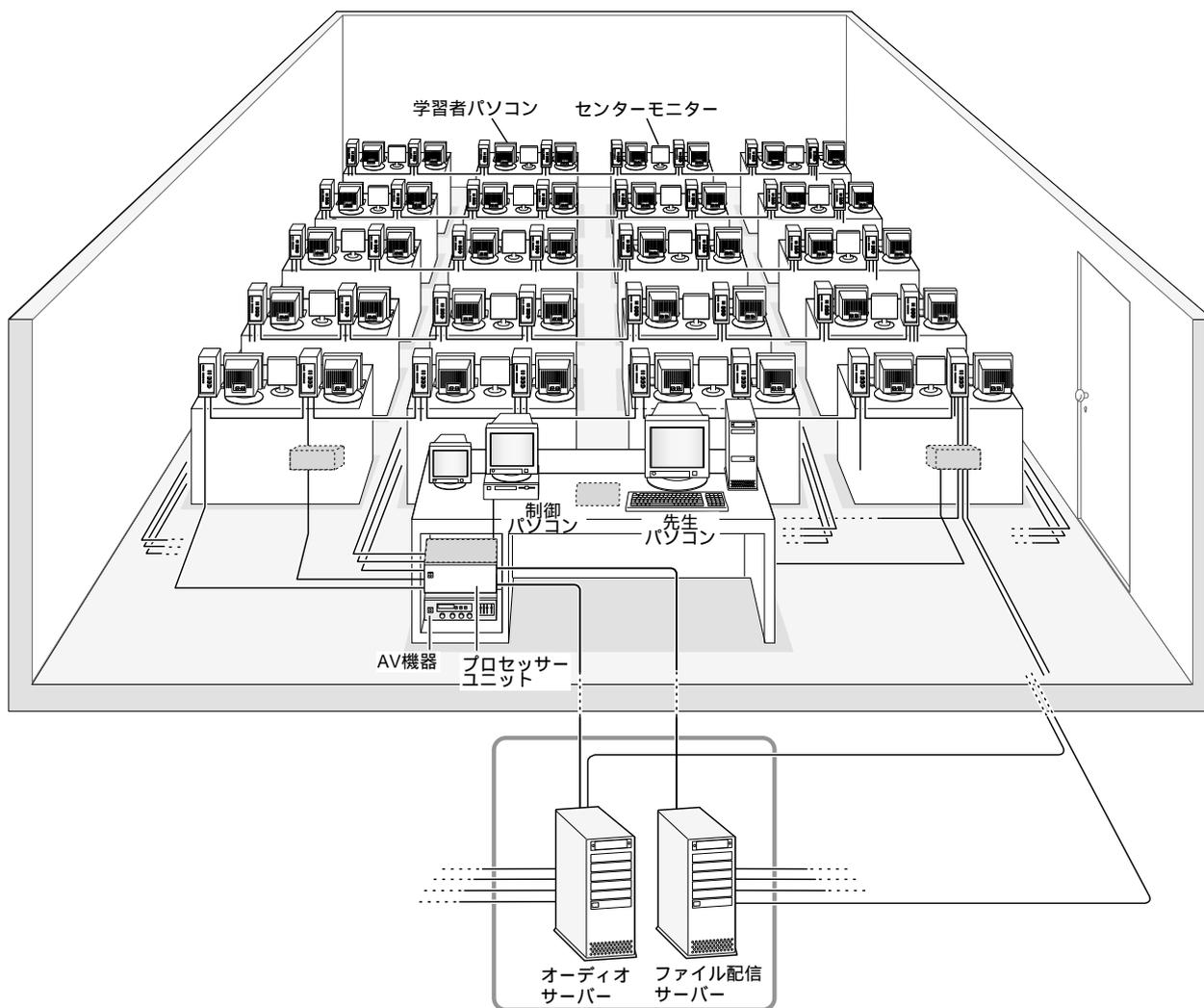
画面転送コントロールソフト（WE-AS861）をご使用の場合、指定した学習者パソコンの画面や、AV機器の映像を学習者パソコンの画面に表示することができます。



（イメージ図）

●センターモニターシステム

画面転送コントロールソフト（WE-AS861）をご使用の場合、指定した学習者パソコンの画面や、AV機器の映像をセンターモニターの画面に表示することができます。



(イメージ図)

# 本書について

本書は制御パソコン、先生パソコンの操作説明書です。本システムでは授業を行う前に、運用のための設定や各パソコンへのシステムソフトのインストールなど、各種設定が必要になります。各種設定の操作方法については、別冊のシステムソフト取扱説明書をお読みください。

なお、本書はシステム管理者、または先生などのパソコン操作に慣れた方を対象に説明しています。

## 本書の構成

本書は制御パソコン編 / 先生パソコン編 / 補助制御パソコン編に分かれています。

### 制御パソコン編

制御パソコンは、先生が使用するパソコンです。授業に関する各種設定や学習者への指示、教材の配布など、授業の進行は制御パソコンから行います。学習者の状況が画面上に常にグラフィック表示され、パソコンの画面を見ながら授業を進行できます。本編では制御パソコンから操作できる機能の内容やその操作方法について説明します。

### 先生パソコン編

先生パソコンは、先生が授業で使用するファイルを作成したり、学習者から回収したファイルを見るなど、通常のWindows環境で利用できるパソコンです。学習者パソコンと同じランチャーパネルを使用して、学習者と同じ操作を行うことができます。本編では、先生パソコンから操作できる機能の内容やその操作方法について説明します。

### 補助制御パソコン編

補助制御パソコンは、チームティーチングモードでサブチーム担当の先生が使用するパソコンです。サブチームの学習者に対して、音声コミュニケーションを行うことができます。本編では、補助制御パソコンから操作できる機能の内容やその操作方法について説明します。

## 本書で使用している用語について

オーディオサーバー	: 音声教材、アナライザー教材などを登録しておくサーバーです。
ファイル配信サーバー	: ファイルの配布や回収を行うサーバーです。 また、WBT型教材も登録します。
ビデオサーバー	: WBT型教材の動画ファイル(WE-AS871)を登録しておくサーバーです。
プロセッサユニット	: AV機器からの教材送出や音声コミュニケーションを行うためのユニットです。
制御パソコン	: 制御用のソフトがインストールされたパーソナルコンピュータです。先生が使用します。
先生パソコン	: 先生用のソフトがインストールされたパーソナルコンピュータです。先生が使用します。
補助制御パソコン	: 補助制御用のソフトがインストールされたパーソナルコンピュータです。先生が使用します。
教材作成パソコン	: オーサリングソフトをインストールして、教材を作成するパーソナルコンピュータです。
学習者パソコン	: 学習者用のソフトがインストールされたパーソナルコンピュータです。学習者が使用します。
ティーチャーユニット	: 先生用の音声入出力ユニットです。ヘッドセットの音量調節などを行います。
スチューデントユニット	: 学習者用の音声入出力ユニットです。ヘッドセットの音量調節などを行います
サブモニター	: 学習者に教材映像を見せるために設置したモニターです。
サーバー音声教材	: 一斉送出、オンデマンド開放で利用できる音声教材です。
WBT型教材	: 音声に静止画、テキスト、問題設定などを加えたWeb利用の教材です。オンデマンド開放で、Webブラウザを使って閲覧することができます。
アナライザー教材	: アナライザー自動進行用の音声教材です。問題の選択肢数、正答番号、回答時間などが設定できます。
サーバー教材	: 上記3種類の教材の総称です。
MTR教材	: マスターテープレコーダーで再生する教材です。
ユニット	: 教材送出やオンデマンド学習などの対象学習者の単位です。クラスを最大2つに分けることができます。
チームティーチング	: 1つの授業またはクラスを二人の先生が役割分担して行う授業モードです。制御パソコンを使う先生をメイン、補助制御パソコンを使う先生をサブと呼びます。

チーム	: チームティーチングモードの対象学習者の単位です。メインの先生が担当するチームをメインチーム、サブの先生が担当するチームをサブチームと呼びます。
STRパネル	: Student Tape Recorderの略です。学習者パソコンからこのパネルを使って、音声教材などの操作を行います。
PRAC	: STRパネルの機能のひとつで、Practiceの略です。教材に自分の音声を重ねて録音し、比較学習などを行います。
PRL	: STRパネルの機能のひとつでParagraph Repeat Listenの略です。教材の任意の区間を繰り返し再生します。
先生用モニターディスプレイ	: 学習者に送出している映像教材、学習者パソコン画面を表示するためのモニターです。
センターモニター	: 学習者に教材映像を見せるために設置したモニターです。
EdViNS2システム	: 株式会社 アイ・ディ・ケイ 社製の画像転送教育支援システムです。
マスターステーション	: 画面転送を行うためのユニットです。 株式会社 アイ・ディ・ケイ 社製 EdViNS2システム
先生用ローカルステーション	: 画面転送を行うための先生用のユニットです。 株式会社 アイ・ディ・ケイ 社製 EdViNS2システム
学習者用ローカルステーション	: 画面転送を行うための学習者用のユニットです。 [ 切換 ] ボタンで先生から送られている映像と、自分のパソコン画面を切り換えることができます。 株式会社 アイ・ディ・ケイ 社製 EdViNS2システム
コントローラー	: 本ソフトを使用しない時に、ボタン操作で画面転送ができます。 株式会社 アイ・ディ・ケイ 社製 EdViNS2システム
キーボードリモコン	: 先生パソコンのキーボード・マウスを使用して、指定した学習者パソコンを制御できます。
ブラックアウト	: 学習者パソコンに表示されている映像をカットします。
画面切換	: 学習者パソコンに送出されている映像と自分のパソコン映像を切り換えて比較ができます。
ライブラリーシステム	: 準備した教材を開放することによって、学習者に自由に学習を行わせることごとことかできるシステムです。。
Windowsログイン連動	: Windowsへのログインの際に入力されたユーザー名を使用して、授業にログインすることができます。

## 略称について

Microsoft® Windows® 95日本語版、Microsoft® Windows® 98 日本語版、Microsoft® Windows® Millennium Edition 日本語版、Microsoft® Windows NT® Version4.0日本語版、Microsoft® Windows® 2000日本語版、Microsoft® Windows XP日本語版のすべてに関する説明を記載している個所では、これらをまとめてWindowsと表記しています。

## 制御パソコン編

### 第1章

# 授業を行う

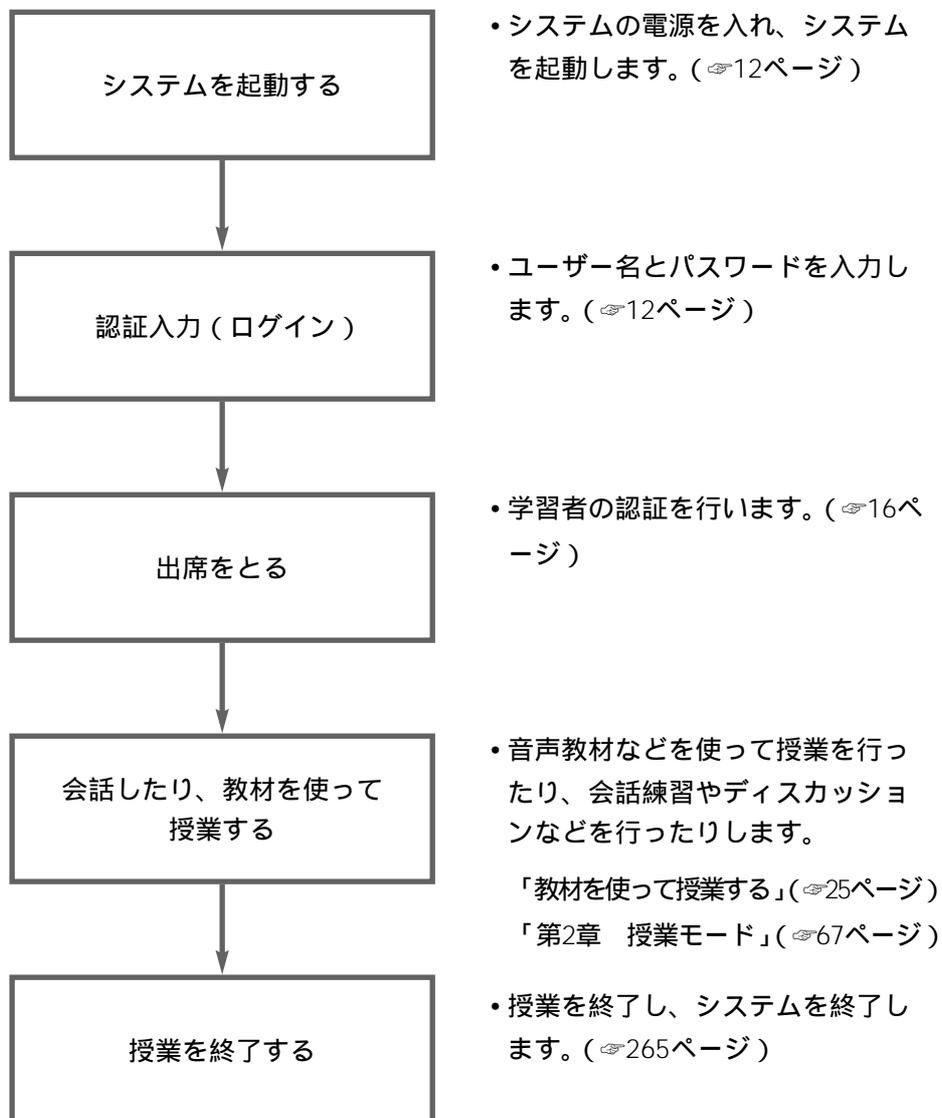
ここでは、授業の開始のしかた～授業に使用する基本的な機能の内容、操作方法について説明します。

## もくじ

授業の流れ .....	11
授業を開始する .....	12
出席をとる .....	16
認証エラー処理について .....	17
学習者全員に話しかける [ オールコール ] ..	18
学習状況を確認する [ モニター / オートモニター ] .....	19
学習者と個別に会話する [ インカム ] ..	20
指定した学習者の音声を他の学習者に聞かせる [ モデル ] ...	21
学習者の呼び出しに応える [ コールレスポンス ] ...	22
学習者のマイクを一斉にOFFにする [ 一斉マイクOFF ] .....	23
授業モードについて .....	24
会話練習モード .....	24
ディスカッションモード .....	24
アナライザーモード .....	24
チームティーチングモード .....	24
教材を使って授業する .....	25
学習者にAV機器から教材を送出する .....	26
学習者にサーバー音声教材、アナライザー教材を送出する ..	35
一斉送中中の教材をサーバーに保存する .....	44
学習者にオンデマンド学習（自習）をさせる .....	46
学習履歴の採取と削除 .....	53
学習者にファイルを配布する .....	55
学習者からファイルを回収する .....	61
授業を終了する .....	65

# 授業の流れ

授業は次の手順で行います。



# 授業を開始する

次の手順に従って、授業を開始します。

## 1. システムの電源を入れます。

次の手順に従って、システムの電源を入れます。

①教室のブレーカーを入れます。

②周辺機器（接続しているHUBやAV機器、プロセッサユニットなど）の電源を入れます。

HUBの電源は、必ずサーバーより先に入れます。

③オーディオサーバー、ファイル配信サーバーを起動します。

サーバーの電源を入れて、パスワードを入力し、サーバーを起動します。（画面の指示に従って操作します）

④制御パソコン、補助制御パソコンの電源を入れます。

⑤Windowsが起動したら、デスクトップ上の [ L3 Stage ] アイコン  をダブルクリックします。

ソフトが起動すると、画面にはユーザー名とパスワードを入力するパネルが表示されます。

## 2. それぞれ、ログインするユーザー名とパスワードを入力し、[ ログイン ] ボタンを押します。



トップメニュー画面が表示されます。

＼ユーザー名とパスワードについて＼

ユーザー名とパスワードはあらかじめ登録が必要です。登録方法など詳細は「別冊システムソフト取扱説明書」をお読みください。

＼ユーザー名またはパスワードを間違えると＼

ユーザー名またはパスワードを間違えると、次のパネルが表示され、3回まで再入力できます。正しいユーザー名とパスワードを入力し直してください。



4回間違えると認証が拒否され、[ OK ] ボタンを押すとWindows画面に戻ります。



3. メニューから [ 授業 ] を選択します。

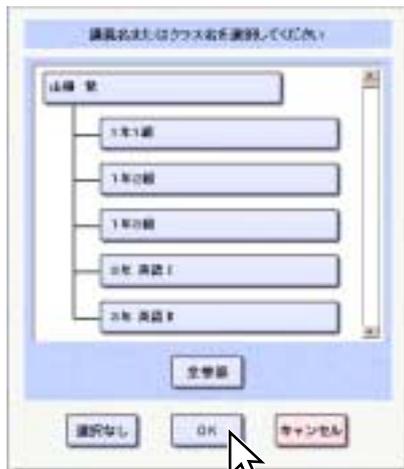


＼注意＼

補助制御パソコンのトップメニュー画面では、[ ログオフ ] [ 終了 ] 以外は使用できません。制御パソコンでチームティーチングモードを開始すると、自動的に授業画面に移ります。

講義 / クラス名選択パネルが表示されます。

4. 講義名またはクラス名を選択し、[ OK ] ボタンを押します。



- 画面の一番上に、制御パソコンにログインしたユーザー名（先生の名前）のボタンが表示されます。ボタンの下にシステム運用管理で登録した講義 / クラス名が一覧で表示されます。講義 / クラス名の登録方法は「別冊 システムソフト取扱説明書」をお読みください。
- 画面右のスクロールバーを操作すると、講義 / クラス名をスクロールできます。

授業画面が表示されます。授業に関する操作はこの授業画面で行います。



5. 先生パソコンの電源を入れ、デスクトップ上の [ L3 Stage ] アイコン  をダブルクリックします。

ランチャーパネルが、画面左下に最小化表示されます。

6. 学習者パソコンの電源を入れ、デスクトップ上の [ L3 Stage ] アイコンをダブルクリックします。

システム運用管理の設定によって、認証入力パネルまたはランチャーパネルのどちらかが表示されます。

＼担当している以外の講義 / クラス名を表示させたいときは＼

ログインしたユーザー（先生）がシステム運用管理で登録した以外の講義名またはクラス名を表示させたいときは、講義 / クラス名選択パネルで [ 全参照 ] ボタンを押します。[ 全参照 ] ボタンを押すと、システムに登録されている講義 / クラス名がすべて表示されます。

＼講義 / クラスを選択せずに授業を開始したいときは＼

講義 / クラス名を登録していない場合は、講義 / クラス名選択パネルで [ 選択なし ] ボタンを押してから [ OK ] ボタンを押し、授業を開始します。ただし、授業運用設定やカスタムパターンは使用できません。授業運用設定やカスタムパターンについては「別冊 システムソフト取扱説明書」をお読みください。

＼ユーザー切り換えについて＼

Windowsをご使用の場合、L3 Stageシステムを起動したままユーザー切り換えを行うと、正常に起動しなくなる恐れがありますので、行わないでください。

# 出席をとる

講義 / クラスごとに学習者の出席 / 遅刻 / 欠席のデータ（出席データ）を取ります。出席データについては「付録 授業データについて」（21ページ）をお読みください。

1. 授業コントロールパネルの [ 出席手続 ] ボタンを押します。



出席手続パネルが表示されます。

2. 学習者側で学習者パソコンの起動と認証入力が終わると、クラスレイアウト部の学習者アイコンが [ 灰色 ] から [ 緑色 ] に切り換わります。 [ 出席締切 ] ボタンを押します。（システム運用管理の設定によっては学習者の認証入力はありません）



- ログインしていた学習者は「出席」として出席データに登録されます。これ以降ログインした学習者は遅刻者表示となります。遅刻者は [ 遅刻者組入れ ] ボタンを押すことにより、「遅刻」として出席データに登録されます。
- [ 出席締切 ] ボタンを押さずに授業に入ることもできますが、その場合は、遅刻者も「出席」として出席データに登録されます。

3. [ 閉じる ] ボタンを押します。

## ㄨ ログインできない学習者がいる場合はㄨ

ログインできない学習者がいると、クラスレイアウト部の学習者アイコンが  になります。認証エラーの学習者は認証拒否パネルが表示され、授業に参加できません。[ 認証エラー処理 ] ボタンを押して、エラー処理を行ってから、[ 出席締切 ] ボタンを押してください。(☞17ページ)

## ㄨ 遅刻者がいる場合にはㄨ

授業中に遅刻者が入ってきた場合は、学習者アイコンが  (遅刻表示) になります。出席手続パネルを表示し、[ 遅刻者組入れ ] ボタンを押します。遅刻して認証入力を行った学習者全員が授業に組み入れられます。

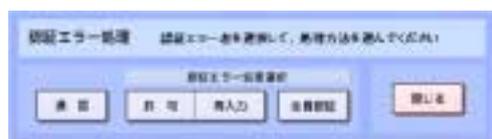
## ㄨ 注意ㄨ

学習者アイコンが遅刻者表示のままでは、その学習者は次の操作の対象になりません。

- 各授業モード (☞24ページ)
- 教材を使った授業 (☞25ページ)
- スピードコントロール (☞94ページ)
- 操作ロック (☞97ページ)

## 認証エラー処理について

[ 認証エラー処理 ] ボタンを押すと、次のパネルが表示されます。認証できない学習者の処理方法を選択し、[ 閉じる ] ボタンを押してください。



### [ 通話 ] ボタン

: 認証できない学習者と通話します。対象者を選択後、このボタンを押してください。

### [ 許可 ] ボタン

: 認証できない学習者を出席扱いにします。対象者を選択後、このボタンを押してください。ただし、クラスレイアウト部の学習者アイコンには名前やユーザー名は表示されません。

### [ 再入力 ] ボタン

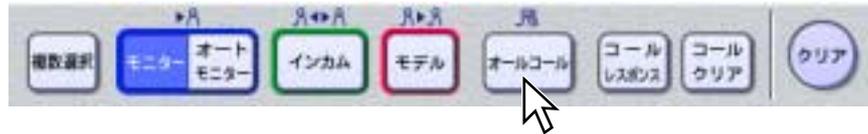
: 認証できない学習者を再度認証入力できる状態にします。対象者を選択後、このボタンを押してください。

### [ 全員認証 ] ボタン

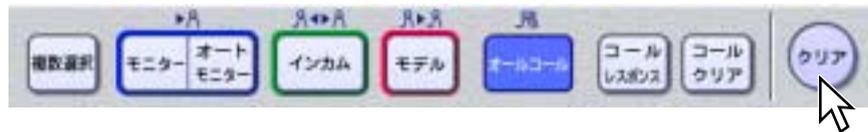
: 認証できないすべての学習者を出席扱いにします。ただし、クラスレイアウト部の学習者アイコンには氏名やユーザー名は表示されません。

# 学習者全員に話しかける [ オールコール ]

1. コミュニケーションパネルの [ オールコール ] ボタンを押します。



2. ヘッドセットを使って話をします。
3. 話を終了するときは、[ クリア ] ボタンを押します。



＼教材の音声を送出しているときは＼

教材を送出しているときは教材の音声はカットされ、先生の声に切り換わります。ただし、教材の送中は継続しています。オールコールを終了すると、再び教材が聞こえます。

＼注意＼

- 学習者が自分で教材の録音・再生、またはオンデマンド学習をしているときにオールコールを行うと、録音・再生やオンデマンド学習は終了します。ただし、制御パソコンの操作による一斉録音は継続します。
- オールコール中は学習者パソコンのマウス・キーボードはロックされます。

## 学習状況を確認する[モニター/オートモニター]

教材送出中やオンデマンド学習中、会話練習中などに学習状況を学習者個別に音声モニターします。オンデマンド学習については、「教材を使って授業する」(☞25ページ)、会話練習については、「授業モードについて」(☞24ページ)をお読みください。

1. コミュニケーションパネルの[モニター]ボタンを押します。



通常、[モニター]ボタンは押された状態になっています。

2. モニターしたい学習者アイコンを押します。

対象者の学習者アイコンが  (モニター状態) になります。

3. モニターを終了するときは、[クリア]ボタンを押します。



＼別の対象者に切り換えるときは＼

別の学習者アイコンを押すと、対象者が切り換わります。

＼複数の学習者を順番にモニターしたいときは＼

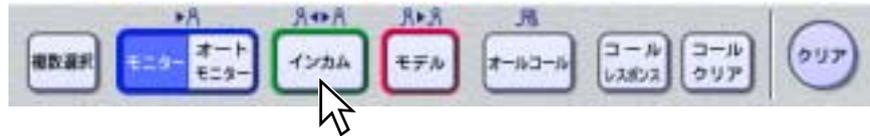
モニター中にコミュニケーションパネルの[複数選択]ボタンを押すと、オートモニターのモードになります。モニターしたい順に複数の学習者アイコンを押すと、学習者アイコンが  (モニター候補状態) になります。[オートモニター]ボタンを押すたびに、順番にモニターする学習者が切り換わります。また、[オートモニター]ボタンを押さなくても、設定した時間と方向に従って、自動的にモニターする学習者が切り換わるよう設定することもできます。詳しくは「第3章管理機能 オートモニターの設定を変更する」(☞109ページ)をお読みください。

＼自動的にモニターしたいときには＼

モニターする学習者を選択せずに[オートモニター]ボタンを押すと、端末名が最も若い番号の学習者から、設定している時間と方向に従ってオートモニターが始まります。詳しくは「第3章管理機能 オートモニターの設定を変更する」(☞109ページ)をお読みください。

## 学習者と個別に会話する [ インカム ]

1. コミュニケーションパネルの [ インカム ] ボタンを押します。



2. 話をしたい学習者アイコンを押し、ヘッドセットを使って話をします。

対象者の学習者アイコンが  (インカム状態) になります。

3. 話を終了するときには、[ クリア ] ボタンを押します。



＼別の対象者に切り換えるときは＼

別の学習者アイコンを押すと、対象者が切り換わります。

＼複数の学習者と同時に会話したいときは＼

- 最大10人まで同時に話をすることができます。
- コミュニケーションパネルの [ インカム ] ボタンを押してから、[ 複数選択 ] ボタンと話をしたい学習者アイコンを押します。
- すべての学習者と話を終了するときには [ クリア ] ボタンを押します。
- 個別に話を終了するには、終了したい学習者アイコンを再度押します。

## 指定した学習者の音声を他の学習者に聞かせる [モデル]

1. コミュニケーションパネルの [モデル] ボタンを押します。



2. モデルにしたい学習者アイコンを押します。

対象者の学習者アイコンが （モデル状態）になります。モデルの対象者が話すと、他の学習者にその音声が聞こえます。このとき、先生の音声もモデルの学習者と同様に全員に聞こえます。ユニットパターンが設定されているときは、モデルの属するユニットが対象となります。

3. モデルを終了するときは、[クリア] ボタンを押します。



＼別の対象者に切り換えるときは＼

別の学習者アイコンを押すと、対象者が切り換わります。ユニットパターンが設定されているときに異なるユニットに属する学習者をモデルにした場合、対象となるユニットも切り換わります。

＼複数の学習者を同時にモデルにしたいときは＼

- 10人までの学習者をモデルに設定できます。
- コミュニケーションパネルの [モデル] ボタンを押してから、[複数選択] ボタンとモデルにしたい学習者アイコンを押します。
- すべてのモデルを終了するには、[クリア] ボタンを押します。
- 個別にモデルを終了するには、モデルを終了したい学習者アイコンを再度押します。
- ユニットパターンが設定されている場合、異なるユニットに属する学習者を同時にモデルにすることはできません。

＼注意＼

- 学習者が自分で教材の録音・再生、またはオンデマンド学習をしているときにモデルを行うと、学習者の録音・再生やオンデマンド学習は終了します。ただし、制御パソコンの操作による一斉録音は継続します。
- モデルの実行中、モデル対象以外の学習者は [コール] ボタン以外操作できません。

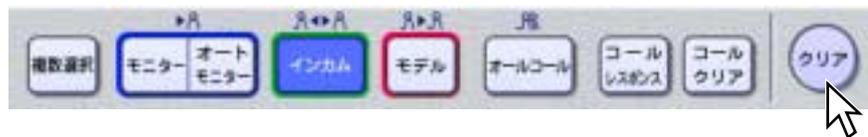
## 学習者の呼び出しに応える [コールレスポンス]

1. 学習者アイコンが  になったら、[コールレスポンス] ボタンを押します。



対象者と話ができる状態になります。学習者アイコンは （インカム状態）になります。

2. 会話を終了するときは、[クリア] ボタンを押します。



＼複数の学習者から呼び出しがある場合＼

- [コールレスポンス] ボタンを押すたびに、呼び出しの早い順に応答します。
- 学習者を選択して応答したい場合は、[インカム] ボタンを押してから、応答したい学習者アイコンを押します。
- 学習者の呼び出しをすべて終了するときは、[コールクリア] ボタンを押します。

# 学習者のマイクを一斉にOFFにする [一斉マイクOFF]

1. [一斉マイクOFF] ボタンを押すと、学習者ヘッドセットのマイクを一斉にOFFにすることができます。  
クリアするときは、再度 [一斉マイクOFF] ボタンを押します。



＼注意＼

[一斉マイクOFF] ボタンは、学習者に教材送出中のみ押すことができます。

# 授業モードについて

本ソフトには、次の4つの授業モードがあります。授業モードパネルにある[会話練習]ボタン、[ディスカッション]ボタン、[アナライザー]ボタン、[チームティーチング]ボタンを押して、それぞれの授業モードを起動します。



## 会話練習モード

学習者どうして会話練習を行わせるモードです。会話練習はペアやグループで行わせることができます。組み合わせる人数は2～10人で設定できます。会話練習モードの対象は、出席している学習者全員（または選択したユニット全員）になります。遅刻表示の学習者は含まれません。

「第2章授業モード 会話練習を行う」(☞68ページ)

## ディスカッションモード

学習者全員でディスカッションを行わせるモードです。学習者が立候補して発言者になると、発言内容が他の学習者全員にも聞こえます。先生はディスカッションに参加する/しないが選択できます。遅刻表示の学習者は含まれません。

「第2章授業モード ディスカッションを行う」(☞74ページ)

## アナライザーモード

学習者に出題し、回答状況を確認しながら授業を進めることができるモードです。回答の状況はリアルタイムに確認できます。回答結果はアナライザーデータとして蓄積されます。アナライザーモードの対象は、出席している学習者全員（または選択したユニット全員）になります。遅刻表示の学習者は含まれません。

「第2章授業モード 出題に対する回答状況を確認しながら授業を行う」(☞76ページ)

## チームティーチングモード

1つのクラスを2人の先生が分担して授業を進めることができるモードです。クラスをメインチームとサブチームに分け、それぞれ1人ずつ先生が担当します。メインの先生は、クラス全体のコントロールができます。コミュニケーションは、自分の担当の学習者のみで行えます。

「第2章授業モード チームティーチングを行う」(☞86ページ)

### 注意

授業モード起動/終了の際は、その時に行われていたコミュニケーションや教材送出手は解除されます。授業モードの対象がユニットの場合でも、全学習者に対するコミュニケーション・教材送出手が解除されます。

## 教材を使って授業する

本ソフトでは、様々な教材を使用して授業を行うことができます。映像・音声教材を学習者へ送出して授業を行ったり、サーバー教材を使ってオンデマンド学習（自習）をさせたりすることもできます。

教材を使った授業に関する操作は、次のとおりです。

- AV機器から教材を送出する」(☞26ページ)
- サーバー音声教材、アナライザー教材を送出する」(☞36ページ)
- 学習者にオンデマンド学習（自習）をさせる」(☞46ページ)
- ファイルを配布する」(☞55ページ)
- ファイルを回収する」(☞61ページ)

＼送出的教材を講義／クラス別にあらかじめ設定しておくには＼

講義／クラスごとに、送出的教材など授業運用の設定をあらかじめ登録しておくことができます。授業運用設定の具体的な内容や設定方法は「別冊 システムソフト取扱説明書」をお読みください。

## 学習者にAV機器から教材を送出する

ビデオやCD、DVDなどの映像・音声教材を学習者に送出します。

1. [教材1] タブを押します。



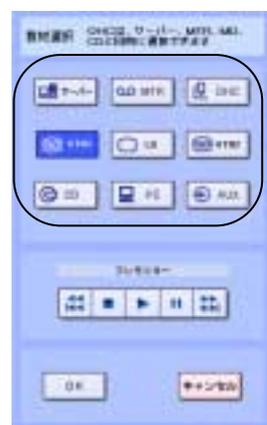
[教材1] タブが前面に表示されます。

2. 表示されている教材から変更したいときは、[選択] ボタンを押します。  
変更しないときは、操作手順6へ進みます。



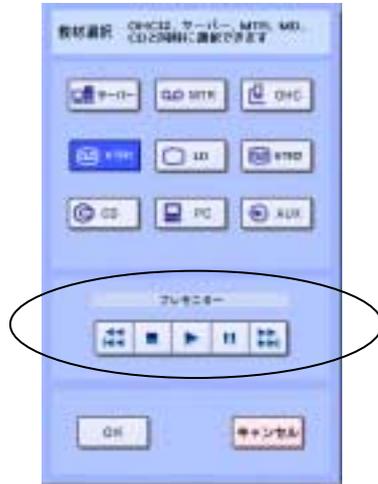
教材選択パネルが表示されます。

3. 送りたい教材のAV機器ボタンを押します。



AV機器が選択されます。

4. 教材を確認（プレモニター）したり、頭出ししたい場合は、プレモニターのリモコンボタンを操作します。プレモニター中は、先生用モニターで映像を、先生のヘッドセットで音声を確認することができます。



[ REW / SKIP BACK ] ボタン 

: 1秒以上押し続けると巻き戻しが始まり、ボタンを離すと元の状態に戻ります。教材によっては、短く（1秒以内）押すと、1つ前の教材へスキップすることができます。

[ STOP ] ボタン 

: 再生、巻き戻し、早送りを停止します。

[ PLAY ] ボタン 

: 再生を開始します。

[ PAUSE ] ボタン 

: 再生を一時停止します。

[ FF / SKIP FORWARD ] ボタン 

: 1秒以上押し続けると早送りが始まり、ボタンを離すと元の状態に戻ります。教材によっては、短く（1秒以内）押すと、1つ先の教材へスキップすることができます。

＼注意＼

- リモコンボタンによる動作は、AV機器の種類やメーカーによって、上記と異なる場合があります。例えば、MTR教材の場合、早送り・巻き戻しをした後、[ PLAY ] ボタンや [ STOP ] ボタンを押さなければ、早送り、巻き戻しが終了しません。
- 制御パソコンのリモコンボタンで操作できるAV機器はリモコン制御用に接続・設定されているもののみです。リモコンボタンで制御できない場合は、直接AV機器を操作してください。
- [ 教材1 ] タブで送信中の教材は、プレモニターのリモコン操作ができません。

5. [OK] ボタンを押します。



教材選択パネルが閉じます。[教材1] タブの教材表示欄に選択した教材が表示されます。

6. 送出先を変更したいときは、送出先の [選択] ボタンを押します。  
変更しないときは、操作手順9へ進みます。



対象者選択パネルが表示されます。

7. 送出する対象者を選択します。



- 学習者全員を対象とする場合は、[全員] ボタンを押し、[OK] ボタンを押します。対象者が学習者全員に設定され、対象者選択パネルが閉じます。操作手順9に進んでください。

- ユニットの学習者を対象とする場合は、それぞれ [ ユニット1 ] ボタンまたは [ ユニット2 ] ボタンを押し、[ OK ] ボタンを押します。対象者がユニットに設定され、対象者選択パネルが閉じます。操作手順9に進んでください。

◇注意◇

[ ユニット1 ] / [ ユニット2 ] ボタンは、あらかじめユニットパターン設定を行っていない場合は押せません。ユニットパターン設定は、システム運用管理の授業運用設定または管理パネルのユニットパターン設定で行えます。

- 個別に学習者を選択する場合は、[ 個別 ] ボタンを押し、[ OK ] ボタンを押します。対象者個別選択パネルが表示されます。

8. 送出したい学習者の学習者アイコンを押し、[ OK ] ボタンを押します。



対象者が設定され、対象者個別選択パネルが閉じます。

[ OK ] ボタンを押す前に一度選択した学習者アイコンを再度押すと、選択を解除できます。

9. [ 教材1 ] タブでも教材のプレモニターや頭出しができます。



送出先の [ 先生 ] ボタンが押されていることを確認してから、リモコンボタンを押してください。リモコンボタンの操作方法は操作手順4をお読みください。

先生のヘッドセットと先生用モニターに教材の音声 / 映像が流れます。

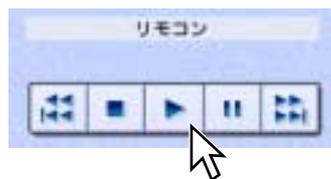
10. 送出先の [ 全員 ] ボタンを押します。

学習者送出先ボタンは、ここでは [ 全員 ] と表示されていますが、操作手順7で選択した対象者によって、[ 個別 ] [ ユニット1 ] などのように表示が変わります。



学習者パソコンでは、STRパネルが開きます。送出中はSTRパネルの [ 教材取込 ] ボタンと録音の [ STOP ] ボタンしか操作できません。

11. [ PLAY ] ボタンを押します。



教材が対象者に送出され、再生が始まります。

12. 再生を止めるときは [ STOP ] ボタンを押します。



再生が終了します。

13. 教材の送出を止めるときは、再度、送出先の [ 全員 ] ボタンを押します。

[ 全員 ] ボタンは、対象者によって [ 個別 ] [ ユニット1 ] など、表示内容が変わります。



## ＼教材に先生の声に合わせて送りたいときは＼

教材に先生声をミックスさせて送出することができます。[教材1]タブの[マイク]ボタンを押してON状態にしてから、マイクに向かって話をします。先生の声の送出を終了するときは、再度[マイク]ボタンを押してください。学習者送出ボタンがON状態でないと[マイク]ボタンは押せません。

## ＼教材の映像をビデオプロジェクターに送りたいときは＼

教材の映像をビデオプロジェクターに送ることができます。[教材1]タブの[VP]ボタンを押してON状態にすると、映像がビデオプロジェクターに送られます。終了するときは、再度[VP]ボタンを押してください。

## ＼教材の映像をサブモニターに送りたいときは＼

教材の映像をサブモニターに送ることができます。[教材1]タブの[サブモニター]ボタンを押してON状態にすると、映像がサブモニターに送られます。終了するときは、再度[サブモニター]ボタンを押してください。

## ＼学習者のパソコンに教材を録音させたいときは＼

学習者のパソコンに教材を録音させることができます。教材送出中、学習者に録音させたい再生箇所では[一斉録音]ボタンを押すと、その時点からの一斉録音を行うことができます。また、教材送出中でない場合も[一斉録音]ボタンを押すと、教材送出と同時に録音が学習者側で開始され、その状態で[一斉録音]ボタンを押す

と録音が終了します。一斉録音中は、対象者の学習者アイコンが  となり、学習者パソコンのSTRパネルはロックされます。

また、学習者パソコンに接続された外部録音機器に一斉録音をしたい場合、学習者パソコンで学生ユニットのLine-Outに外部録音機器を接続して、[一斉マイクOFF]ボタンを押すことにより、学習者の声を録音せずに教材を一斉録音することができます。

＼教材録音時に学習者のマイクを切りたいときは＼

教材を一斉録音する際に、録音される教材に学習者のマイク音声を取り込ませたくない場合などには、一斉マイクオフを行うことができます。



＼教材の送出しに関する設定を変更したいときは＼

教材の音声レベルや、トラックを切り換えるなど、教材の送出しに関する設定を変更できます。[教材1] タブの [設定] ボタンを押すと、送出し設定パネルが表示されます。



#### プレモニター

：教材を送出する前に、設定を変更しながら確認できます。リモコンボタンについては操作手順4をお読みください。

#### トラック選択設定

[ステレオ] ボタン : ステレオ再生します

[モノラル] ボタン : LchとRchの音声をミキシングして両耳に再生します。

[L] ボタン : Lchの音声を両耳に再生します。

[R] ボタン : Rchの音声を両耳に再生します。

### 教材音声レベル設定

教材音声レベルつまみ : 教材音声の入力レベルを10段階で調整します。

[ミュート] ボタン : 教材の音声聞こえなく(ミュート)になります。

[ - ] ボタン : 押すたびに1段階ずつ音声レベルが低くなります。

[ + ] ボタン : 押すたびに1段階ずつ音声レベルが高くなります。

### ポーズコントロール設定 (MTR教材のみ)

: MTRの教材をセンテンス (S) とポーズ (P) の組み合わせで再生します。

[ SP ] ボタン : 1センテンスの後、1ポーズ挿入して再生します。

[ SPSP ] ボタン : 1センテンス、1ポーズの後、同じセンテンスで1センテンス、1ポーズで再生します。

[ SSP ] ボタン : 1センテンスを2回再生し、1ポーズ挿入して再生します。

[ SSPS ] ボタン : 1センテンスを2回再生し、1ポーズ挿入の後、もう一度同じセンテンスを再生します。

[ なし ] ボタン : ポーズコントロールをしません。

### ポーズ時間設定 (MTR教材のみ)

: ポーズコントロールするセンテンスのポーズ時間を設定します。MTR教材を再生中にポーズコントロール、ポーズ時間を変更すると教材の再生が止まります。

[ ×1 ] ボタン : ポーズ時間をセンテンスと同じ長さにします。

[ ×1.5 ] ボタン : ポーズ時間をセンテンスの1.5倍の長さにします。

[ ×2 ] ボタン : ポーズ時間をセンテンスの2倍の長さにします。

### [ 閉じる ] ボタン

: 送出設定パネルを閉じます。

### ＼注意＼

- ポーズコントロールでは、一定音量以下の状態が継続していることで、センテンスの区切りを認識します。教材によっては意図したとおりに動作しない場合もあります。
- MTR教材を再生中にポーズコントロール設定やポーズ時間を変更すると、再生が終了します。

### ＼遅刻者に教材を送出するには＼

遅刻者に教材を送出するには、出席手続パネルで遅刻者組み入れを行い、あらためて教材送出を行ってください。遅刻者表示のままでは、学習者全員の対象になりません。また個別選択の対象にもなりません。

出席締め切りを行っていない場合でも、教材を送出中に出席した学習者は、その時の送出対象にはなりません。次の送出から対象となります。

＼一部の学習者に他の学習者と異なる教材を送出するには、  
対象者を個別に選択し、異なる教材を送出します。その際、他の学習者に教材を送出するために使用した教材タブと異なる教材タブを使って教材を送出してください。

## 学習者にサーバー音声教材、アナライザ教材を送出する

学習者に送出的るサーバー教材は、サーバー音声教材  と、アナライザ教材  です。

1. [教材2] タブを押します。



[教材2] タブが前面に表示されます。

初期設定では、[教材2] タブではサーバー教材が選択されています。サーバー教材以外の教材が表示されている場合は [選択] ボタンを押し、教材選択パネルでサーバーを設定してください。

2. 送先を変更したいときは、[選択] ボタンを押します。  
変更しないときは、操作手順5へ進みます。



対象者選択パネルが表示されます。

3. 送出的る対象者を選択します。



- 学習者全員を対象とする場合は、[全員] ボタンを押し、[OK] ボタンを押します。対象者が学習者全員に設定され、対象者選択パネルが閉じます。操作手順5に進んでください。

- ユニットの学習者を対象とする場合は、それぞれ [ ユニット1 ] ボタンまたは [ ユニット2 ] ボタンを押し、[ OK ] ボタンを押します。対象者がユニットに設定され、対象者選択パネルが閉じます。操作手順5に進んでください。

◇注意◇

[ ユニット1 ] / [ ユニット2 ] ボタンは、あらかじめユニットパターン設定を行っていない場合は押せません。ユニットパターン設定は、システム運用管理の授業運用設定または管理パネルのユニットパターン設定で行えます。

- 個別に学習者を選択する場合は、[ 個別 ] ボタンを押し、[ OK ] ボタンを押します。対象者個別選択パネルが表示されます。

4. 送出したい学習者の学習者アイコンを押し、[ OK ] ボタンを押します。



対象者が設定され、対象者個別選択パネルが閉じます。

[ OK ] ボタンを押す前に一度選択した学習者アイコンを再度押すと、選択を解除できます。

5. [ サーバリスト ] ボタンを押します。



サーバー教材選択パネルが表示されます。

## 6. 教材（レッスンまたはセンテンス）を選択します。



- 教材フォルダーが表示されます。レッスンを送出したい場合は、フォルダーの左にある [ + ] を押し、フォルダー内のレッスンを表示して、送出するレッスンを選択します。
- センテンスを送出したい場合は、レッスンの左にある [ + ] を押し、レッスン内のセンテンスを表示して、送出するセンテンスを選択します。
- レッスン、センテンスには、教材時間が表示されます。レッスンの教材時間は、レッスン内の全てのセンテンスの教材時間の総和です。

## \\ 複数のセンテンスを送出したいとき \\

- 最大10個までのセンテンスを送出できます。サーバー教材選択パネルで [ 複数選択 ] ボタンを押してから、センテンスを選択します。
- [ 全教材 ] ボタンは、教材送出時には使用できません。

7. 教材を確認（プレモニター）したり、頭出ししたい場合は、プレモニターのリモコンボタンを操作します。



#### カウンター、スライダー

: 選択した教材の再生位置をつまみで指定します。選択した教材すべてを合わせた時間が、スライダーの長さに相当します。

#### [REW / SKIP BACK] ボタン

: 短く（1秒以内）押すと、同じ教材の先頭に戻ります。再生中に1秒以上押し続けると巻き戻しが開始され、ボタンを離すと再生します。複数の教材を選択しているときは、1回押すたびに前のセンテンスの先頭にスキップします。

#### [STOP] ボタン

: 再生、巻き戻し、早送りを停止します。

#### [PLAY] ボタン

: 再生を開始します。

#### [PAUSE] ボタン

: 再生を一時停止します。

#### [FF / SKIP FORWARD] ボタン

: 再生中に1秒以上押し続けると早送り開始され、ボタンを離すとその位置から再生します。複数の教材を選択しているときは、短く（1秒以内）1回押すたびに次のセンテンスの先頭にスキップします。

8. [OK] ボタンを押します。



サーバー教材選択パネルが閉じます。[教材2] タブの使用中の教材欄に、選択した教材の最初の教材名が表示されます。

9. [教材2] タブでも教材のプレモニターや頭出しができます。



送先先の [先生] ボタンが押されていることを確認してから、リモコンボタンを押してください。リモコンボタンの操作方法は操作手順7をお読みください。

## 10. 送出先の [ 全員 ] ボタンを押します。

学習者送出先ボタンは、ここでは [ 全員 ] と表示されていますが、操作手順3で選択した対象者によって、[ 個別 ] [ ユニット1 ] などのように表示が変わります。



学習者パソコンでは、STRパネルが開きます。送出中はSTRパネルの [ 教材取込 ] ボタンと録音の [ STOP ] ボタンしか操作できません。

## 11. [ PLAY ] ボタンを押します。



教材が対象者に送出され、再生が始まります。  
アナライザー教材の場合、回答（ポーズ）時間はそのまま無音となります。

## 12. 再生を止めるときは [ STOP ] ボタンを押します。



再生が終了します。

13. 教材の送目を止めるときは、再度、送先先の [ 全員 ] ボタンを押します。

[ 全員 ] ボタンは、対象者によって [ 個別 ] [ ユニット1 ] など表示内容が変わります。



≪教材に先生の声に合わせて送りたいときは≫

教材に先生声をミックスさせて送送することができます。[ 教材2 ] タブの [ マイク ] ボタンを押してON状態にしてから、マイクに向かって話をします。終了するときは、再度 [ マイク ] ボタンを押してください。また、学習者送目ボタンがON状態のときに [ マイク ] ボタンを押してください。

≪学習者のパソコンに教材を録音させたいときは≫

学習者のパソコンに教材を録音させることができます。[ 一斉録音 ] ボタンを押し、教材を送出すると、同時に教材の録音が学習者側で開始され、送目を止めると録音が終了します。[ 一斉録音 ] ボタンは、学習者送目ボタンを押し教材送目を開始する前に押してください。また、一斉録音中は、対象者の学習者アイコンが  となり、学習者パソコンのマウス・キーボードはロックされます。

≪教材の送目に関する設定を変更したいときは≫

トラックの切り換えや添付コメントを表示するなど、教材の送目に関する設定を変更できます。[ 教材2 ] タブの [ 設定 ] ボタンを押すと、送目設定パネルが表示されます。教材再生中に [ 設定 ] ボタンが押された場合、再生は停止します。



### プレモニター

：教材を送出する前に、設定を変更しながら確認できます。また、つまみをスライドさせて再生位置を指定することもできます。各ボタンについては操作手順7をお読みください。

### トラック選択設定

[ステレオ] ボタン : ステレオ再生します

[モノラル] ボタン : LchとRchの音声をミキシングして両耳に再生します。

[L] ボタン : Lchの音声を両耳に再生します。

[R] ボタン : Rchの音声を両耳に再生します。

### ポーズコントロール設定

：サーバー音声教材、アナライザー教材をセンテンス（S）とポーズ（P）の組み合わせで再生します。教材送中中は操作できません。  
プレモニター中に操作したときは、再生が停止します。

[SP] ボタン : 1センテンスの後、1ポーズ挿入して再生します。

[SPSP] ボタン : 1センテンス、1ポーズの後、同じセンテンスで1センテンス、1ポーズで再生します。

[SSP] ボタン : 1センテンスを2回再生し、1ポーズ挿入して再生します。

[SSPS] ボタン : 1センテンスを2回再生し、1ポーズ挿入の後、もう一度同じセンテンスを再生します。

[なし] ボタン : ポーズコントロールをしません。

### ポーズ時間設定

：ポーズコントロールするセンテンスのポーズ時間を設定します。サーバー音声教材、アナライザー教材を再生中にポーズコントロール、ポーズ時間を変更すると教材の再生が止まります。

[×1] ボタン : ポーズ時間をセンテンスと同じ長さにします。

[×1.5] ボタン : ポーズ時間をセンテンスの1.5倍の長さにします。

[×2] ボタン : ポーズ時間をセンテンスの2倍の長さにします。

### コメント表示設定

[ON] ボタン : サーバー教材に添付したコメントを、学習者パソコンで表示させます。

[OFF] ボタン : サーバー教材に添付したコメントを、学習者パソコンで表示させません。

### [閉じる] ボタン

：送出設定パネルを閉じます。

## ◇注意◇

- サーバー教材を再生中にポーズコントロール設定やポーズ時間を変更すると、再生が終了します。
- アナライザー教材にポーズコントロール設定を行ったときは、回答（ポーズ）時間も、センテンスとみなされます。

## ◇遅刻者に教材を送出するには◇

遅刻者に教材を送出するには、出席手続パネルで遅刻者組み入れを行い、あらためて教材送出行ってください。遅刻者表示のままでは、学習者全員の対象になりません。また個別選択の対象にもなりません。

出席締め切りを行っていない場合でも、教材を送出中に出席した学習者は、そのときの送対象にはなりません。次回の送から対象となります。

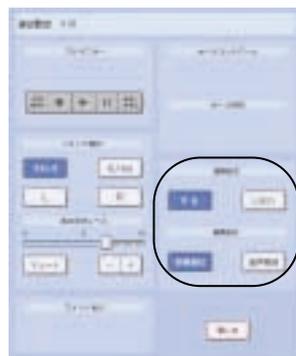
## 一斉送出中の教材をサーバーに保存する（AS862）

授業中に学習者に対してAV機器を送出しながら、送出中の音声教材をサーバーに登録し、あとからサーバー教材として使用できるようにすることができます。

1. 送出するAV教材を選択し、[教材1]タブの[設定]ボタンを押します。



2. 送出設定で「蓄積設定」の[する]ボタンと、送出する教材によって「蓄積設定」の[音声教材]または[映像教材]ボタンを押し、[閉じる]ボタンを押して、パネルを閉じます。



教材を送出すると、サーバーへの教材登録が開始されます。音声教材を選択した場合、次回のサーバー教材送出およびオンデマンド学習から登録された教材を使用することができます。

登録された教材は名は「ログインユーザー名」\_AUDフォルダーが作成され、レッスン名は、「YYMMDD（年月日）」\_001からの連番になります。

映像教材を選択した場合、映像教材はMPEGファイルとして保存されますが、そのままではL3 Stage教材として使用できません。教材として使用する場合は、授業終了後に、オーサリングソフトを使用して、WBT型教材内に取り込んでください。登録されたMPEGファイルは、ビデオサーバーのmpeg共有フォルダーに保存されず。

## ◇注意◇

- 映像教材をサーバーに保存するには、制御パソコンにMPEGエンコーダボードが搭載されている必要があります。MPEGエンコーダボードは指定のものをご使用ください。指定外のMPEGエンコーダボードをご使用になった場合、WBT型教材で動画素材として使用することができなくなります。
- サーバーへ保存された音声教材は、他のサーバー教材と同様に使用することができます。

## 学習者にオンデマンド学習（自習）をさせる

学習者にサーバー教材を開放して、自習をさせます。開放できる教材は、サーバー音声教材  と、WBT型教材 、アナライザー教材  です。

1. [ オンデマンド ] タブを押します。



[ オンデマンド ] タブが前面に表示されます。

2. 開放先を変更したいときは、[ 選択 ] ボタンを押します。変更しないときは操作手順5に進みます。



対象者選択パネルが表示されます。

3. 教材を開放する対象者を選択します。



- 学習者全員を対象とする場合は、[ 全員 ] ボタンを押し、[ OK ] ボタンを押します。対象者が学習者全員に設定され、対象者選択パネルが閉じます。操作手順5に進んでください。
- ユニットの学習者を対象とする場合は、それぞれ [ ユニット1 ] ボタンまたは [ ユニット2 ] ボタンを押し、[ OK ] ボタンを押します。対象者がユニットに設定され、対象者選択パネルが閉じます。操作手順5に進んでください。

## ◇注意◇

[ユニット1] / [ユニット2] ボタンは、あらかじめユニットパターン設定を行っていない場合は押せません。ユニットパターン設定は、システム運用管理の授業運用設定または管理パネルのユニットパターン設定で行えます。

- 個別に学習者を選択する場合は、[個別] ボタンを押し、[OK] ボタンを押します。対象者個別選択パネルが表示されます。

4. 教材を開放したい学習者の学習者アイコンを押し、[OK] ボタンを押します。



対象者が設定され、対象者個別選択パネルが閉じます。

[OK] ボタンを押す前に一度選択した学習者アイコンを再度押すと、選択を解除できます。

5. [サーバーリスト] ボタンを押します。



サーバー教材選択パネルが表示されます。

## 6. 教材を選択します。



- サーバー音声教材とアナライザ教材は、同じフォルダー以下に表示されます。WBT型教材がある場合は、別のフォルダー（名称は同じ）にWBT型教材のみ表示されます。WBT型教材は、レッスンとセンテンスの構造を持ちません。
- フォルダーごと開放したい場合は、フォルダーを押します。レッスンを開放したい場合は、フォルダーの左にある [ + ] を押し、フォルダー内のレッスンを表示して、開放するレッスンを選択します。
- センテンスを開放したい場合は、レッスンの左にある [ + ] を押し、レッスン内のセンテンスを表示して、開放するセンテンスを選択します。

∟ 複数のフォルダー、レッスン、センテンスを開放したいとき ∟

- 最大10個までのフォルダーやレッスン、センテンスを開放できます。サーバー教材選択パネルで [ 複数選択 ] ボタンを押してから、教材を選択します。ただし、フォルダーとレッスンなど、異なる階層の教材は、同時に選択できません。
- サーバー教材選択パネルに表示されているすべての教材を開放したいときは、[ 全教材 ] ボタンを押します。

7. サーバー音声教材、アナライザー教材を確認（プレモニター）する場合は、プレモニターのリモコンボタンを操作します（選択した教材にWBT型教材が含まれている場合は、このパネル上でのプレモニターはできません）。



#### カウンター、スライダー

：選択した教材の再生位置をつまみで指定します。選択した教材すべてを合わせたスライダーの長さに相当します。

#### [REW / SKIP BACK] ボタン

：短く（1秒以内）押すと、同じ教材の先頭に戻ります。再生中に1秒以上押し続けると巻き戻しが開始され、ボタンを離すと再生します。複数の教材を選択しているときは、1回押すたびに前のセンテンスの先頭にスキップします。

#### [STOP] ボタン

：再生、巻き戻し、早送りを停止します。

#### [PLAY] ボタン

：再生を開始します。

#### [PAUSE] ボタン

：再生を一時停止します。

#### [FF / SKIP FORWARD] ボタン

：再生中に1秒以上押し続けると早送り開始され、ボタンを離すとその位置から再生します。複数の教材を選択しているときは、短く（1秒以内）1回押すたびに次のセンテンスの先頭にスキップします。

8. WBT型教材を確認（プレビュー）する場合は、[プレビュー] ボタンを押します。



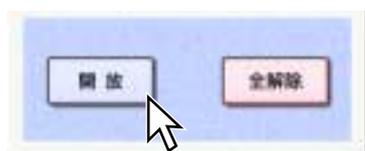
先生パソコンに、選択した教材が開放されます。先生パソコンを操作して教材をプレビュー/プレモニターすることができます（先生パソコン編 開放する教材を確認する」[141ページ](#)）

9. [OK] ボタンを押します。



[ オンデマンド ] タブの画面に戻ります。[ オンデマンド ] タブの教材表示欄に選択した教材名が表示されます。

10. [開放] ボタンを押します。



教材が対象者に開放されます。学習者パソコンではSTRパネルとサーバー教材選択パネルが表示されます。学習者が教材を再生すると、学習者アイコンが



に切り換わり、学習を開始したことがわかります。

また、学習者がSTRパネルを操作して教材を利用した個別学習を行うと、学習者アイコンが操作に応じて変わります。



: 学習者は録音を行っています。

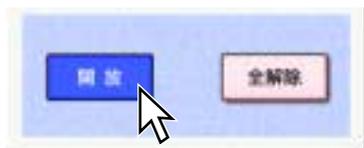


: 学習者はPRAC機能を使って、教材に自分の声を重ねて録音しています。



: 学習者はPRL機能を使って、教材の一部を指定し繰り返し再生しています。

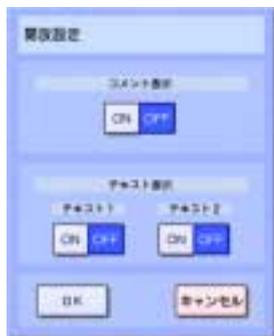
11. 開放を止めるときは、再度 [ 開放 ] ボタンを押します。



開放が終了します。学習者パソコンではサーバー教材選択パネルが閉じ、[ サーバー ] ボタンが押せなくなります。

＼教材開放に関する設定を変更したいときは、＼

開放する教材の添付コメントとテキストを表示する / しないの設定を変更できます。[ オンデマンド ] タブの [ 設定 ] ボタンを押すと、開放設定パネルが表示されます。開放設定の対象は、選択した全ての教材となります。



#### コメント表示設定

[ ON ] ボタン : サーバー音声教材、アナライザー教材に添付されているコメントを学習者パソコンに表示させます。

[ OFF ] ボタン : サーバー音声教材、アナライザー教材に添付されているコメントを学習者パソコンに表示させません。

#### テキスト表示設定

テキスト1,2は、WBT型教材で表示されるテキストが対象です。

[ ON ] ボタン : WBT型教材に添付されているテキストを学習者パソコンに表示させます。

[ OFF ] ボタン : WBT型教材に添付されているテキストを学習者パソコンに表示させません。

## [OK] ボタン

：設定を変更して、開放設定パネルを閉じます。

## [キャンセル] ボタン

：設定をキャンセルして、開放設定パネルを閉じます。

## ＼遅刻者に教材を開放するには＼

遅刻者に教材を開放するには、出席手続パネルで遅刻者組み入れを行い、あらかじめ教材開放を行ってください。遅刻表示のままでは、学習者全員の対象になりません。また個別選択の対象にもなりません。

出席締切を行っていない場合でも、教材を開放中に出席した学習者は、そのときの解放対象にはなりません。次回の開放から対象となります。

## ＼複数の開放先に教材を開放するには＼

ユニット1とユニット2に異なる教材を開放したり、一部の学習者に個別で違う教材を開放することができます。1つの開放先に対して[開放]ボタンを押して開放を実行したら、再度操作手順2で違う開放先を選択し、同様に操作します。

複数の開放先に教材を開放した場合、[全解除]ボタンを押すと、全ての開放先への教材開放が終了します。

## 学習履歴の採取と削除 (AS862)

### 学習履歴採取

サーバーの教材やダウンロードした教材を利用して学習した際の情報を学習履歴データとして、各学習者パソコン内に保存することができます。保存した学習履歴データはオープンルーム、またはオンデマンド開放の終了時点で自動的に学習者パソコンからファイル配信サーバーへアップロードされます。

学習履歴の採取を行うか行わないかは、システム運用管理「先生別設定」で行うことができます。詳しくは、システム運用管理（別冊 システムソフト取扱説明書）

#### 学習履歴に残される内容

- ログインユーザー名
- 学習者氏名
- 座席番号
- 使用教材名
- 学習開始時間
- 学習終了時間
- 学習所要時間

学習履歴は学習者毎の学習履歴とは別に、クラス毎の学習履歴も作成されます。学習履歴はCSV形式のファイルとして保存されるため、Microsoft Excelなどを使用して編集したり閲覧したりすることができます。

作成される学習者履歴ファイル名は、「(年月日)\_(01からの連番).csv」になります。2003年1月31日に作成された最初の学習履歴ファイル名の場合、「20030131\_01.csv」となります。

保存先のフォルダー構成は、下図のようになります。

#### 授業での学習履歴

通常授業、オープンルーム、ライブラリーシステム（ライブラリーシステムとサーバーを共有時）



#### 学習履歴保存対象

- サーバー音声教材
- WBT型教材

#### 学習履歴の削除

サーバーに保存されている学習履歴は、システム運用管理で設定されている指定日数に従って保存 / 削除されます。

保存期間の指定を0日に指定すると、全ての学習履歴を削除することができます。

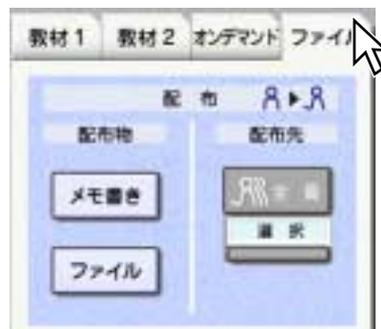
## 学習者にファイルを配布する

学習者に音声教材とは別にデータファイルなどを配布します。配布したファイルは学習者パソコンのレポートフォルダーに保存されます。配布するファイルの準備については、「先生パソコン編 配布するファイルを準備する」(143ページ)をお読みください。

### 注意

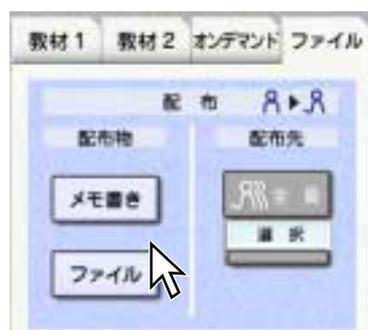
オンデマンド学習中は[ファイル]タブは選択できません。また、学習者が自分で教材の録音・再生を行っているときにファイル配布を行うと、その学習者の録音・再生は終了します。

1. [ファイル]タブを押します。



[ファイル]タブが前面に表示されます。

2. 配布物の[ファイル]ボタンを押します。



配布先のボタンが押せるようになります。

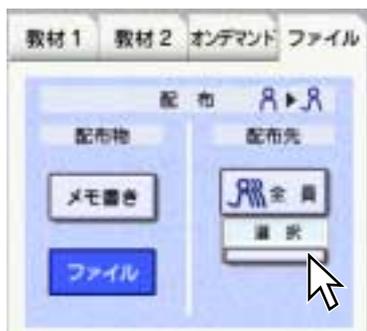
3. 配布ファイル選択画面で、ファイル配信サーバー内のフォルダー以外を選択する場合、ドライブ選択メニューで ボタンを押して、プルダウンメニューからドライブを選択します。



注意

配布元のファイルとして、サーバー以外の場所にあるファイルを指定した場合、いったんファイル配信サーバーにコピーしてから配布を行うため、ファイルサイズによっては時間が長くなる場合があります。

4. 配布先を変更したいときは、配布先 [ 選択 ] ボタンを押します。変更しないときは、操作手順6へ進みます。



対象者選択パネルが表示されます。

5. 配布する対象者を選択します。



- 学習者全員を対象とする場合は、[ 全員 ] ボタンを押し、[ OK ] ボタンを押します。対象者が学習者全員に設定され、対象者選択パネルが閉じます。操作手順6に進んでください。
- ユニットの学習者を対象とする場合は、それぞれ [ ユニット1 ] ボタンまたは [ ユニット2 ] ボタンを押し、[ OK ] ボタンを押します。対象者がユニットに設定され、対象者選択パネルが閉じます。操作手順6に進んでください。

## ◇注意◇

[ユニット1] / [ユニット2] ボタンは、あらかじめユニットパターン設定を行っていない場合は押せません。ユニットパターン設定は、システム運用管理の授業運用設定または管理パネルのユニットパターン設定で行えます。

- 個別に学習者を選択する場合は、[個別] ボタンを押し、[OK] ボタンを押します。対象者個別選択パネルが表示されます。

6. 配布したい学習者の学習者アイコンを押し、[OK] ボタンを押します。

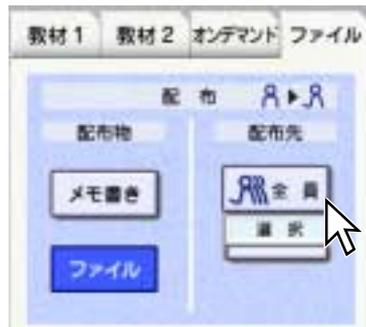


対象者が設定され、対象者個別選択パネルが閉じます。

[OK] ボタンを押す前に一度選択した学習者アイコンを再度押すと、選択を解除できます。

7. 配布先の [全員] ボタンを押します。

学習者配布先ボタンは、ここでは [全員] と表示されていますが、操作手順4で選択した対象者によって [個別]、[ユニット1] などのように表示が変わります。



配布ファイル選択パネルが表示されます。

8. 配布したいファイルを押し、[OK] ボタンを押します。



配布ファイル選択パネルが閉じ、配布中パネルが表示され、ファイルの配布が開始されます。  
 配布対象の学習者側では録音や再生は終了し、マウスとキーボードがロックされ操作できなくなります。  
 途中 [キャンセル] ボタンを押すと、配布を中止できます。

複数のファイルを選択するには  
 [複数選択] ボタンを押してからファイルを押します。フォルダーごと配布することもできます。

学習者にファイルを配布後、自動的にそのファイルが開くようにするには  
 ファイルを1つ配布する場合にのみ、そのファイルを配布後に自動的に開くように設定できます。ファイルを選択後、「配布後の自動起動」の [する] ボタンを押します。

フォルダーを移動するには  
 パネルに表示されたフォルダーをダブルクリックして開いた場合、[1つ上のフォルダーへ] ボタンを押すと、フォルダーを移動できます。



9. 配布が完了すると、つぎのパネルが表示されます。



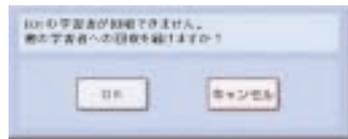
[OK] ボタンを押します。

## ＼配布を途中で中止すると＼

配布を途中で中止すると、その時点までに配布されていたファイルは学習者パソコンから削除されます。また、同じ名前のファイルを過去に配布していた場合、そのファイルも削除される場合があります。

## ＼配布が途中でできなくなったときには＼

配布できない学習者がいると、次のパネルが表示されます。



## [OK] ボタン

: パネルを閉じます。再度、操作手順2から操作し直してください。

## ＼遅刻者にファイルを配布するには＼

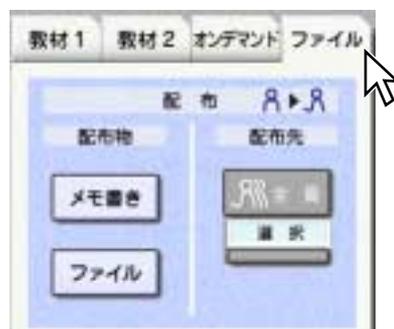
遅刻者にファイルを配布するには、出席手続パネルで遅刻者組み入れを行ってください。遅刻表示のままでは、学習者全員の対象になりません。また個別選択の対象にもなりません。

出席締切を行っていない場合でも、配布中に出席した学習者は、そのときの配布対象にはなりません。次の配布から対象となります。

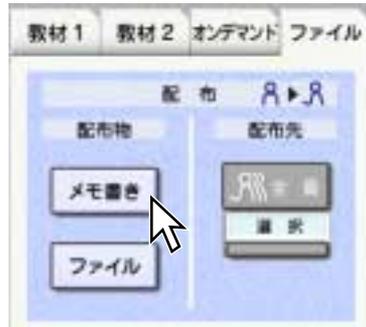
## ＼メモ書きを配布するには＼

事前に用意したファイルではなく、その場で作成した文章などのメモ書きを学習者に配布することもできます。次の手順でメモ書きを作成し、配布します。配布したメモ書きは学習者パソコンに表示されます。

## ① [ファイル] タブを押します。



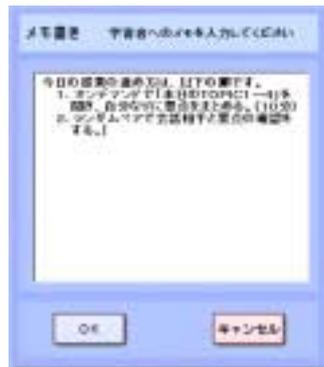
② 「配布物」の [メモ書き] ボタンを押します。



③ 配布先を選択し、学習者配布ボタンを押します（☞ 操作手順3～6）。

メモ書きパネルが表示されます。

④ キーボードで文章を入力します。



- 入力できる文字数と行数は入力欄に表示できる範囲内です。
- 文字の入力モードを変更したいときはALTキーを押しながら、半角/全角キーを押します。

⑤ [OK] ボタンを押します。



メモ書きパネルを閉じて学習者への配布を開始します。

## 学習者からファイルを回収する

ファイルを学習者から回収します。回収するファイルは学習者パソコンのレポートフォルダー内にあるすべてのファイルです。フォルダーは回収の対象になりません。回収したファイルは、先生パソコンのレポートフォルダーに保存されます。「先生パソコン編 ランチャーパネルの使いかた」(☞131ページ)

をお読みください。

### ＼注意＼

オンデマンド学習中は[ファイル]タブは選択できません。また、学習者が自分で教材の録音・再生を行っているときにファイル回収を行うと、その学習者の録音・再生は終了します。

### ＼回収をはじめる前に＼

事前に学習者にレポートフォルダー内にあるファイルを整理し、不要なファイルはあらかじめ削除させておいてください。回収に時間がかかるため、回収するファイルの数・サイズをできるだけ少なくしておくことをおすすめします。

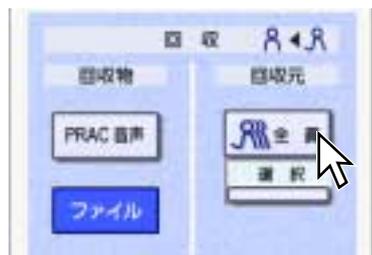
また、ファイル配信サーバーのデータディスクは、常に十分な空き容量を確保してください。空き容量が少ないと、ファイル回収に失敗する可能性があります。

1. [ファイル]タブを押し、回収物の[ファイル]ボタンを押します。



回収元のボタンが押せるようになります。

2. 回収元を変更したいときは、回収元の[選択]ボタンを押します。  
変更しないときは操作手順5へ進みます。



対象者選択パネルが表示されます。

## 3. 回収する対象者を選択します。



- 学習者全員を対象とする場合は、[ 全員 ] ボタンを押し、[ OK ] ボタンを押します。対象者が学習者全員に設定され、対象者選択パネルが閉じます。操作手順5に進んでください。
- ユニットの学習者を対象とする場合は、それぞれ [ ユニット1 ] ボタンまたは [ ユニット2 ] ボタンを押し、[ OK ] ボタンを押します。対象者がユニットに設定され、対象者選択パネルが閉じます。操作手順5に進んでください。

## ＼注意＼

[ ユニット1 ] / [ ユニット2 ] ボタンは、あらかじめユニットパターン設定を行っていない場合は押せません。ユニットパターン設定は、システム運用管理の授業運用設定または管理パネルのユニットパターン設定で行えます。

- 個別に学習者を選択する場合は、[ 個別 ] ボタンを押し、[ OK ] ボタンを押します。対象者個別選択パネルが表示されます。

## 4. 回収したい学習者の学習者アイコンを押し、[ OK ] ボタンを押します。

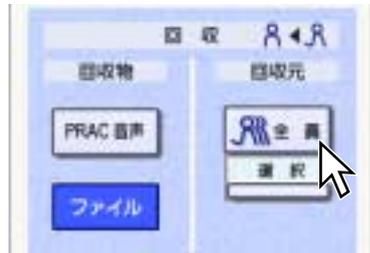


対象者が設定され、対象者個別選択パネルが閉じます。

[ OK ] ボタンを押す前に一度選択した学習者アイコンを再度押すと、選択を解除できます。

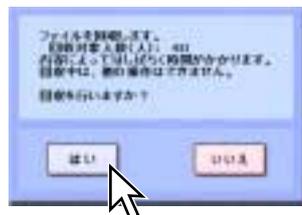
5. 回収元の [ 全員 ] ボタンを押します。

学習者回収元ボタンは、ここでは [ 全員 ] と表示されていますが操作手順3で選択した対象者によって [ 個別 ] [ ユニット1 ] などのように表示が変わります。



ファイル回収確認パネルが表示されます。

6. [ はい ] ボタンを押します。



対象者からの回収が開始され、回収中パネルが表示されます。回収対象の学習者側では、録音や再生は終了し、マウスとキーボードがロックされ操作できなくなります。途中 [ キャンセル ] ボタンを押すと、回収を中止できます。回収が終了すると、「回収が終了しました」というメッセージが表示されます。

7. [ OK ] ボタンを押します。



ㄨ回収を途中で中止するとㄨ

回収を途中で中止すると、その時点までに回収されたファイルは格納先から削除されます。学習者パソコンのレポートフォルダー内にはファイルは残っています。

ㄨ遅刻者からファイルを回収するにはㄨ

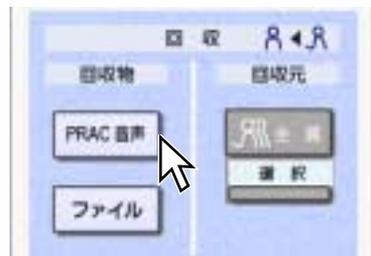
遅刻者からファイルを回収するには、出席手続パネルで遅刻者組み入れを行ってください。遅刻表示のままでは、学習者全員の対象になりません。また個別選択の対象にもなりません。

出席締め切りを行っていない場合でも、回収中に出席した学習者は、そのときの回収対象にはなりません。次回の回収から対象となります。

## ＼PRAC音声を回収するには＼

学習者が教材と比較して練習したPRAC音声を、回収することができます。回収したPRAC音声は、先生パソコンのレポートフォルダーに保存されます。

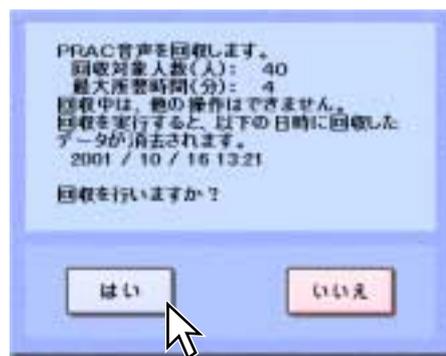
- ① 「回収物」の [ PRAC音声 ] ボタンを押します。



- ② 回収元を選択し、[ 学習者回収 ] ボタンを押します（操作手順2～5）。

PRAC音声回収確認パネルが表示されます。

- ③ [ はい ] ボタンを押します。



回収が開始されます。

## ＼注意＼

- 本システムでは、回収したPRAC音声の最新5回分（内部的には6回分）のデータを保存し、古いデータは自動的に削除しています。回収したデータを保管したい場合は、記録メディアにデータをコピーしてください。その際、回収されたデータやフォルダー、“dummy”で始まる名称のファイルの一部または全部を削除したり、名前を変更したりすると、回収が正常に行われなかったり、回収したデータが保存されなくなる場合がありますので、絶対におやめください。
- ファイル配信サーバーのデータディスクは、常に十分な空き容量を確保してください。空き容量が十分でないと、回収することができなくなる場合があります。例えば、学習者80人からそれぞれ合計10分のPRAC音声を回収する場合、600MB程度の容量が必要です。これを6回分データ保存するには、4GB程度の容量が必要になります。データディスクはファイル回収の機能と共有していますので、大きなファイルを回収した場合などは、特に注意してください。

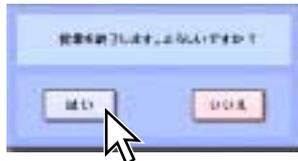
# 授業を終了する

1. 授業コントロール部の [ 授業終了 ] ボタンを押します。



授業終了の確認パネルが表示されます。

2. [ はい ] ボタンを押します。



授業が終了し、トップメニュー画面が表示されます。

このとき学習者パソコンはシステム運用管理の先生別設定によって次の3つのいずれかの動作になります。

- 認証入力パネルに戻る
- Windows画面に戻る
- 電源OFFする

3. システムを終了する場合は、[ 終了 ] ボタンを押します。



システム終了の確認パネルが表示されます。

4. [ はい ] ボタンを押します。



システムが終了します。

＼システムを起動したまま、使用する先生が交代する場合は、  
[ ログオフ ] ボタンを押します。認証入力パネルが表示されますので、ユーザー名  
とパスワードを入力し、ログインします。

＼システムの終了方法について、  
システムの終了方法は、システム運用管理の先生別設定で、「Windows画面に戻る」  
(初期値) / 「電源OFFする」のどちらかに設定できます。システム運用管理につ  
いては「別冊 システムソフト取扱説明書」をお読みください。



# 授業モード

授業モードには、会話練習モード、ディスカッションモード、アナライザーモード、チームティーチングモードの4つのモードがあります。ここでは、その授業モードを使った授業のしかたについて説明します。

## もくじ

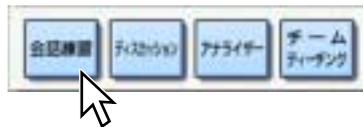
会話練習を行う（会話練習モード）	..... 68
ディスカッションを行う（ディスカッションモード）	... 74
出題に対する回答状況を確認しながら授業を行う （アナライザーモード）	..... 76
チームティーチングを行う （チームティーチングモード）	..... 86
チームの分けかた	..... 86
チームティーチングパネルの使いかた	..... 89
終了のしかた	..... 90
その他の操作	..... 92

## 会話練習を行う（会話練習モード）

学習者どうして会話練習を行わせるモードです。会話練習はペアやグループで行わせることができます。組み合わせる人数は2～10人で設定できます。

会話練習中もコミュニケーションパネルの操作が可能です。ただし、全員対象の会話練習中にユニット対象のモデルを行った場合、全員の会話練習が中断します。

1. 授業モードパネルの [ 会話練習 ] ボタンを押します。



ユニットパターンが設定されている場合、対象者選択パネルが表示されます。ユニットパターンが設定されていない場合は、会話練習パネルが表示されます。操作手順3へ進んでください。

2. 会話練習を行う対象者を選択します。



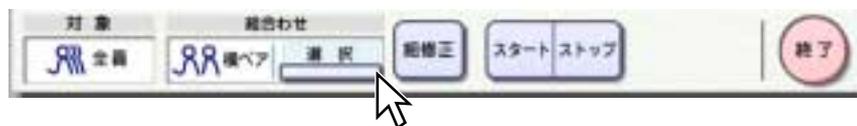
- 学習者全員を対象とする場合は、[ 全員 ] ボタンを押し、[ OK ] ボタンを押します。
- ユニットの学習者を対象とする場合は、どちらかのユニットボタンを押し、[ OK ] ボタンを押します。

対象者選択パネルが閉じて、会話練習パネルが表示されます。

### ＼注意＼

- 会話練習は、個別の学習者を対象に行うことはできません。
- ユニットの学習者を対象とすると、そのユニットに属する学習者だけが会話練習を行えます。

3. 組み合わせを変更したいときは、組み合わせの [ 選択 ] ボタンを押します。変更しないときは操作手順5へ進みます。



組み合わせ選択パネルが表示されます。

4. 組み合わせを選択し、[ OK ] ボタンを押します。



[ 横ペア ] ボタン

: 席が隣の学習者同士をペアとして設定します。

[ 縦ペア ] ボタン

: 席の前後の学習者同士をペアとして設定します。

[ ランダム ] ボタン

: 組となる学習者をランダムに設定します。押すと、パネルが次のようになります。

[ - ] ボタンまたは [ + ] ボタンを押して、組の人数を設定します。



[ 手動 ] ボタン

: 学習者を自由に組み合わせます。詳しくは「組み合わせを自由に設定したいときは」(☞71ページ)をお読みください。

[ カスタム ] ボタン

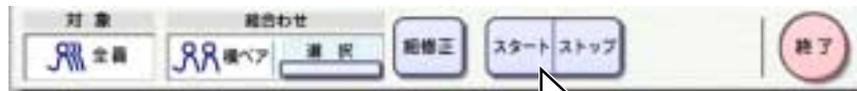
: ペアとなる学習者をあらかじめ登録してあるカスタムパターンで設定します。詳しくは「あらかじめ登録してある組み合わせに設定したいときは」(☞72ページ)をお読みください。

組み合わせ選択パネルが閉じ、学習者アイコンが  (組番号を表示) になります。

＼注意＼

- 学習者の人数が奇数の場合、横ペア、縦ペア、ランダム2人の組み合わせで、最後の組は3人になります。
- ランダム3人～10人の場合、組み合わせの結果、最後に1人だけが残ったとき、その学習者は最後の組に組み入れられます。

5. 会話練習パネルの [ スタート ] ボタンを押します。



組に設定した学習者同士の通話が可能になります。

6. 会話を終了させるときは [ ストップ ] ボタンを押します。



学習者間の通話ができない状態になります。

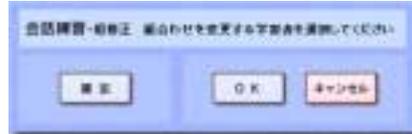
7. 会話練習モードを終了するときは、[ 終了 ] ボタンを押します。



会話練習パネルが閉じます。組み合わせを個別に設定・変更した場合は、その組み合わせをカスタムパターンに登録することができます。詳しくは「組み合わせを設定・変更すると」(☞72ページ)をお読みください。

### ＼組み合わせを変更したいときは＼

設定した学習者の組み合わせを一部変更したいときは、会話練習パネルの[組修正]ボタンを押します。次のパネルが表示されます。



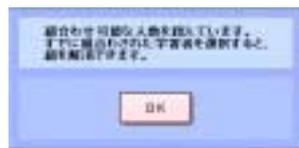
組み合わせが設定されている学習者アイコンを押すと、その学習者と組の学習者全員の設定が解除され、組番号の表示が消えます。あらためて、組み合わせたい学習者アイコンを押し、[確定]ボタンを押します。組み合わせを変更したい学習者に対して、上記の操作を繰り返します。設定が終了したら、[OK]ボタンを押し、パネルを閉じます。

### ＼組み合わせを自由に設定したいときは＼

組み合わせる学習者を自由に設定したいときは、操作手順4の組み合わせ選択パネルで[手動]ボタンを押します。[OK]ボタンを押すと次のパネルが表示されます。

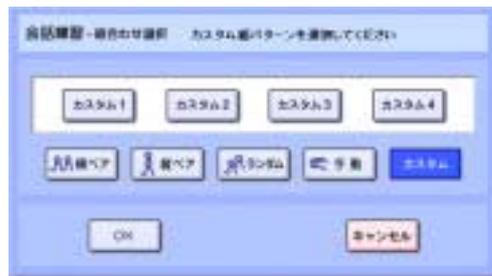


- 組番号に「1」が表示されます。組み合わせたい学習者の学習者アイコンを押し、[確定]ボタンを押します。学習者アイコンに組番号が表示されます。[確定]ボタンを押すたびに、組番号が1つずつ増えていきます。組み合わせたい学習者に対して、上記の操作を繰り返します。組み合わせが終了したら、[OK]ボタンを押します。
- 組み合わせを変更したい場合は、次の操作を行います。  
組み合わせされている学習者アイコンを押すと、その学習者と組の学習者全員の設定が解除され、組番号の表示が消えます。[ - ]ボタン、または[ + ]ボタンを押し、新たに設定する組番号を表示します。あらためて組み合わせたい学習者アイコンを押し、[確定]ボタンを押します。
- 1つの組に設定できる学習者の人数は1～10人です。10人を超えて組み合わせようとすると、次のパネルが表示されます。[OK]ボタンを押して、人数が10人以下になるように学習者を選択し直してください。



＼あらかじめ登録してある組み合わせに設定したいときは＼

学習者をあらかじめ登録してあるカスタムパターンで組み合わせたいときは、操作手順4の組み合わせ選択パネルで[カスタム]ボタンを押します。次のパネルが表示されたら、設定したいカスタムパターンのボタンを押します。カスタムパターンはシステム運用管理の講義/クラス別設定で登録できます。詳しくは、「別冊 システムソフト取扱説明書」をお読みください。



- 全員を対象に組み合わせられたカスタムパターンを、ユニット対象で会話練習中に選択すると、対象外の学習者は組み合わせからはずれません。

＼遅刻者を組み入れるには＼

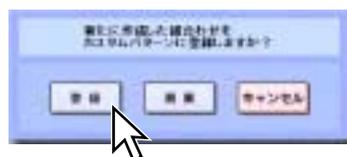
遅刻者を会話練習に組み入れるには、会話練習モードをいったん終了し、出席手続パネルで遅刻者組み入れを行い、あらためて会話練習モードに入ってください。遅刻者表示のままでは会話練習に組み入れられません。

出席締め切りを行っていない場合でも、会話練習モード中に出席した学習者は、すぐに会話に参加することはできません。組み合わせを設定し直してください。

＼組み合わせを設定・変更すると＼

組み合わせ選択パネルの[手動]ボタンを使って組み合わせを自由に設定したり、会話練習パネルの[組修正]ボタンを使って組み合わせを変更すると、会話練習モードを終了する際に、次のようなパネルが表示されます。作成・変更した組み合わせを登録することができます。

- ① [登録] ボタンを押します。



[廃棄] ボタン

: 作成・変更した組み合わせをカスタムパターンに登録せず、会話練習モードを終了します。

[キャンセル] ボタン

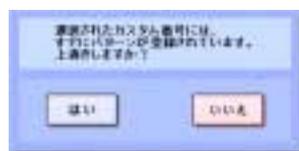
: 終了の操作を中止し、パネルを閉じます。

カスタムパターン登録パネルが表示されます。

- ②作成・変更した組み合わせを登録するカスタム番号を押し、[ OK ] ボタンを押します。



カスタムパターンとして登録され、会話練習モードが終了します。  
選択したカスタム番号にすでに組み合わせパターンが登録されていた場合には次のパネルが表示されます。



- [ はい ] ボタン : 新たに作成・変更した組み合わせをカスタムパターンとして登録し、会話練習モードを終了します。
- [ いいえ ] ボタン : 登録を行わず、カスタムパターン登録パネルに戻ります。他のカスタム番号を選択してください。

◇注意◇

組み合わせを設定・変更した後、横ペア・縦ペア・ランダムなどの既存の組み合わせに設定し直した場合は、カスタムパターンへの登録はできません。

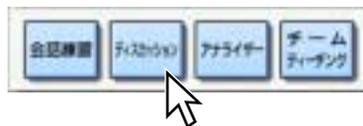
## ディスカッションを行う（ディスカッションモード）

学習者全員でディスカッションを行わせるモードです。学習者が発言者に立候補し発言すると、発言している内容が他の学習者全員に聞こえます。先生もディスカッションに参加し、発言することができます。発言者は最大10人まで設定できます。

### 注意

ディスカッションモード中は、学習者パソコンではSTRロックとランチャーパネルロックがかかり、[コール]ボタンしか操作できなくなります。また、制御パソコンでは、[オンデマンド]タブと[ファイル]タブが使用できなくなります。

1. 授業モードパネルの[ディスカッション]ボタンを押します。



ディスカッションパネルが表示されます。

2. コミュニケーションパネルの[オールコール]ボタンを押し、発言者を募ります。



3. [クリア]ボタンを押し、オールコールを終了します。



学習者はランチャーパネルの[コール]ボタンを押して、立候補します。学習者が立候補すると、立候補している学習者の学習者アイコンが  に変わります。

### 注意

ディスカッションモードではコミュニケーションパネルは[オールコール]ボタンと[クリア]ボタンのみ使用できます。

3. ディスカッションパネルの [ 立候補レスポンス ] ボタンを押します。



立候補した順に発言者になります。発言者になると学習者アイコンが  (赤枠) に変わります。発言者には最大10人まで設定できます。発言者を設定したら、ディスカッションを開始できます。そのままマイクに向かって話をします。このとき、先生も発言者に設定されています。

4. ディスカッションを終了するときは、[ 終了 ] ボタンを押します。



ディスカッションパネルが閉じます。

＼発言者を指定したい場合は＼

立候補者がいない場合など、発言者を指定したいときは、学習者アイコンを押すと、その学習者を発言者に設定できます。

＼発言者、立候補者をクリアするには＼

発言者すべてを解除するには、[ 発言者クリア ] ボタンを押します。発言者、立候補者すべてを解除するには、[ オールクリア ] ボタンを押します。

＼先生が発言者から抜けるには＼

ディスカッション中でも先生は発言者から抜けて、教材のプレモニターなど他の作業ができます。[ 先生参加 ] ボタンを押してOFFにします。先生が参加していないときは、[ 立候補レスポンス ] ボタン、[ 発言者クリア ] ボタン、[ オールクリア ] ボタンの操作はできません。再度、発言者になりディスカッションに参加したいときは、もう一度 [ 先生参加 ] ボタンを押します。

＼遅刻者を参加させるには＼

遅刻表示の学習者は、ディスカッションに発言者として参加できません。参加させるには、いったんディスカッションモードを終了し、出席手続パネルで遅刻者組み入れを行ってから、あらためてディスカッションモードに入ってください。

## 出題に対する回答状況を確認しながら授業を行う (アナライザーモード)

学習者に出題し、その回答状況を確認しながら授業を進めることができるモードです。回答の状況はリアルタイムに確認できます。1回のアナライザーモードで実行できる問題数は200問です。アナライザーの結果はアナライザーデータとして保存できます。アナライザーデータについては「付録 授業データについて」(☞150ページ)をお読みください。

1. 授業モードパネルの [ アナライザー ] ボタンを押します。



ユニットパターンが設定されている場合、対象者選択パネルが表示されます。ユニットパターンが設定されていない場合は、アナライザー教材使用確認パネルが表示されます。操作手順3へ進んでください。

2. アナライザーを行う対象者を選択します。



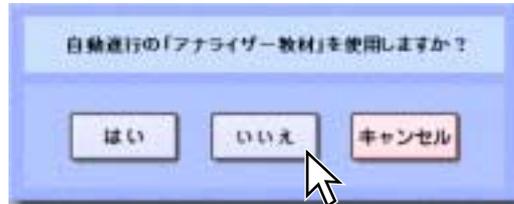
- 学習者全員を対象とする場合は、[ 全員 ] ボタンを押し、[ OK ] ボタンを押します。
- ユニットの学習者を対象とする場合は、どちらかのユニットボタンを押し、[ OK ] ボタンを押します。

対象者選択パネルが閉じて、アナライザー教材使用確認パネルが表示されます。

### ＼注意＼

- アナライザーは、個別の学習者を対象に行うことはできません。
- ユニットの学習者を対象とすると、そのユニットに属する学習者だけがアナライザーモードになります。

3. アナライザー教材使用確認パネルで、[いいえ] ボタンを押します。



[はい] ボタン

: あらかじめサーバーに登録してあるアナライザー教材を使用して、回答受付や締め切り、問題提示を自動的に行います。アナライザー教材の使いかたは、「アナライザー教材を使うと」をお読みください。

[いいえ] ボタン

: AV教材などを使用して、手動で回答受付や締め切り、問題提示を行います。

[キャンセル] ボタン

: アナライザーモードを開始せず、元の授業画面に戻ります。

アナライザーパネルが表示されます。学習者パソコンでは、回答パネルが表示されます。

4. アナライザーパネルの [設定] ボタンを押します。



アナライザー設定パネルが表示されます。

5. アナライザー設定パネルで1問目の正答番号を設定します。



出題する問題の正答番号を選択します。アンケートなど正答のない出題を行う場合は、[なし] ボタンを押します。

6. [OK] ボタンを押します。



正答番号が設定され、アナライザー設定パネルが閉じます。

7. 教材を使って出題するときは、教材を送出します。

操作方法についての詳細は「第1章授業を行う 教材を使って授業する」(☞25ページ)をお読みください。

8. [回答受付] ボタンを押します。



学習者からの回答を受け付けられる状態になります。

- アナライザーパネルに経過時間と回答率が表示されます。
- 回答した学習者の学習者アイコンが  (回答番号が表示) に変わります。
- 回答受付中は正答番号を変更することができます。

9. 回答状況を見て [締切] ボタンを押し、回答を締め切ります。



学習者側で回答ボタンが押せなくなります。

10. [リセット] ボタンを押します。

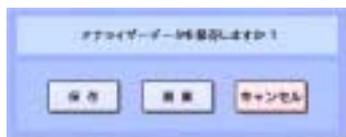


回答データや経過時間、回答率がクリアされます。問題を複数出題するときは、操作手順2～8を繰り返します。

11. アナライザーを終了するときは、[終了] ボタンを押します。



アナライザーデータ保存確認パネルが表示されます。



[保存] ボタン

: 実行したアナライザーの結果データを保存して、アナライザーモードを終了します。

[廃棄] ボタン

: 実行したアナライザーの結果データを廃棄して、アナライザーモードを終了します。

[キャンセル] ボタン

: 終了操作をキャンセルして、アナライザーパネルに戻ります。

≪学習者へ結果を通知するには≫

出題結果として、次の内容を各学習者へ自動的に通知できます。

- 正答番号
- 正答数（正答した学習者数）
- 回答分布（回答番号ごとの学習者数）
- 最終スコア（それまでの学習者ごとの成績）

これらは、[締切] ボタンを押すと学習者パソコンに表示されます。[リセット] ボタンを押すと、表示は消えます。

①アナライザーパネルで [設定] ボタンを押します。



アナライザー設定パネルが表示されます。



- [ 正答番号 ] ボタン : 正答番号を通知します。
- [ 正答数 ] ボタン : 正答番号を通知します。
- [ 回答分布 ] ボタン : 回答番号ごとの学習者数を通知します。
- [ 最終スコア ] ボタン : すべての出題に関する学習者個人の正答数と総出題数を通知します。

② [ OK ] ボタンを押します。



設定が確定し、アナライザー設定パネルが閉じます。

＼回答の締め切りタイミングを自動設定するには、

回答の締め切りタイミングは「経過時間」と「回答率」で設定できます。  
経過時間は [ 回答受付 ] ボタンを押してからの時間を設定します。5秒～600秒の間で5秒単位で設定します。

回答率は締め切りタイミングにしたい回答率を設定します。例えば、回答率を80%に設定すると、経過時間にかかわらず、回答率が80%になった時点で締め切りになります。従って、問題によって締め切るまでの時間が異なります。回答率は10%～100%の間で10%単位で設定します。

①アナライザーパネルで [ 設定 ] ボタンを押します。



アナライザー設定パネルが表示されます。



- [ 経過時間 ] ボタン : 経過時間による自動締め切りを有効にします。
- [ - ] ボタン : 5秒単位で設定時間が少なくなります。
- [ + ] ボタン : 5秒単位で設定時間が増えます。
- [ 回答率 ] ボタン : 回答率による自動締め切りを有効にします。
- [ - ] ボタン : 10%単位で回答率が少なくなります。
- [ + ] ボタン : 10%単位で回答率が増えます。

② [ OK ] ボタンを押します。



設定が確定し、アナライザー設定パネルが閉じます。

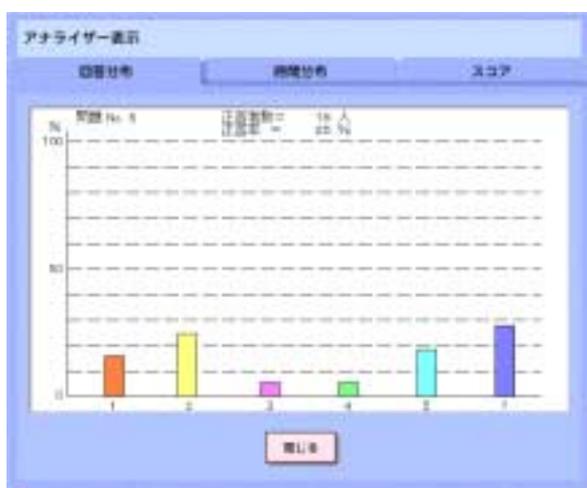
＼アナライザーの分析結果を表示するには、

回答受付中や全ての問題を終了した後などに、学習者の回答状況を分析表示させることができます。分析の種類は、1問ごとに学習者が何番を回答したかがわかる回答分布表示、1問ごとに学習者がいつ回答したかがわかる時間分布表示があり、アナライザー結果として各学習者ごとの成績、問題ごとの成績がわかるスコア表示があります。

①アナライザーパネルで [ 分析表示 ] ボタンを押します。

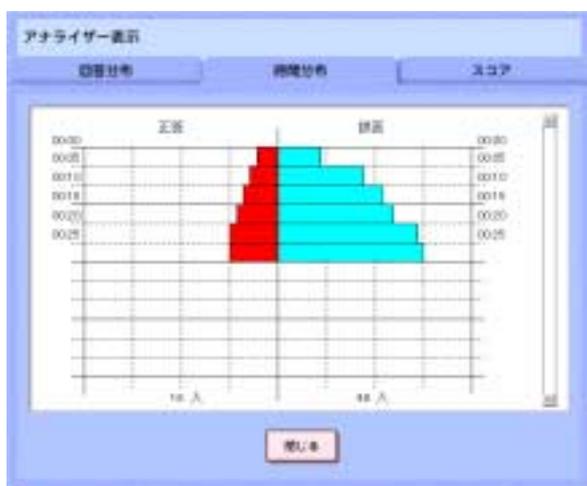
アナライザー表示パネルが表示されます。

②回答分布表示を見るには [ 回答分布 ] タブを押します。



回答番号 ( 1 ~ 5、 ? : 未回答 ) 別に、回答率を棒グラフで表示します。

③時間分布表示を見るには [ 時間分布 ] タブを押します。



5秒ごとに正答率 / 誤答率を棒グラフで表示します。回答受付開始からスクロールしながら表示が更新されます。現時点から600秒前までは、スクロールして表示をさかのぼることができます。

- ④スコア表示を見るには [ スコア ] タブを押します。

[ 問題ごと ] ボタンが押されていると、その時点までに実行された問題の問題数、平均正答率、学習者の問題ごと正答数および正答率が表示されます。

アナライザー表示

問題ごと 問題ごと スコア

● 問題数 = 8 問 ● 平均正答率 = 42 %

No.	正答数	正答率
1	25 / 64	53%
2	43 / 64	67%
3	32 / 64	54%
4	16 / 64	25%
5	28 / 64	44%
6	16 / 64	25%

問題ごと 学習者ごと リセット 閉じる

[ 学習者ごと ] ボタンを押すと、その時点までに実行された問題の問題数、平均正答率、学習者ごとの正答数および正答率が表示されます。

アナライザー表示

問題ごと 問題ごと スコア

● 問題数 = 8 問 ● 平均正答率 = 42 %

No.	学習者	正答数	正答率
A01	木下 涼子	5 / 8	63 %
A02	加藤 正世	3 / 8	38 %
A03	池上 洋介	1 / 8	13 %
A04	名取 聡一	1 / 8	13 %
A05	井上 洋子	1 / 8	13 %
A06	坂上 美奈	0 / 8	0 %
A07	森本 美代子	0 / 8	0 %
A08	佐藤 寛	5 / 8	63 %

問題ごと 学習者ごと リセット 閉じる

- ⑤アナライザー表示パネルで [ 閉じる ] ボタンを押します。

アナライザー表示パネルが閉じます。

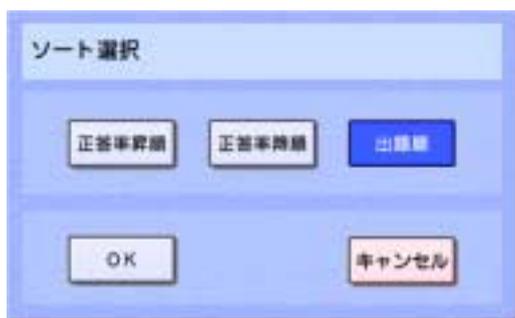
＼スコア表示の並び順を変更するには、

スコア表示の問題ごと / 学習者ごとの並び順を、変更することができます。

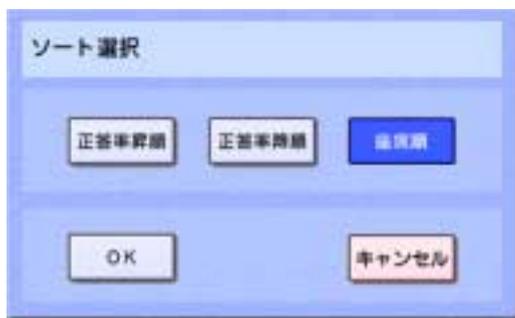
①アナライザー表示パネルの [ スコア ] タブで、[ ソート ] ボタンを押します。

ソート選択パネルが表示されます。

問題ごとスコアが表示されている場合は、並べ替えのキーは正答率の昇順 / 降順と出題順になります（初期設定では出題順に並べられています）。



学習者ごとスコアが表示されている場合は、並べ替えのキーは正答率の昇順 / 降順と学習者の座席順（端末名順）になります（初期設定では座席順に並べられています）。



②ソート選択パネルで、並べ替えたいキーのボタンを選択し、[ OK ] ボタンを押します。

ソート選択パネルが閉じて、スコア表示が並べ替えられます。

## ＼アナライザー教材を使うと＼

操作手順3で [ はい ] ボタンを押すと、あらかじめ登録してあるアナライザー教材が使用できます。アナライザー教材には、センテンスに出題する問題、正答番号つき回答受付時間（ポーズ）などを登録できるため、アナライザーを自動進行で行うことができます。

- ①アナライザー教材使用確認パネルで、[ はい ] ボタンを押します。

サーバー教材選択パネルが表示されます。



- サーバー教材選択パネルには、アナライザー教材のみ表示され、レッスンを1つだけ選択できます。教材の選択方法、プレモニターの方法、教材送出方法は、「第1章 授業を行う 教材を使って授業する」(25ページ)をお読みください。
- ② [ 教材1 ] タブの使用中の教材欄に、選択したアナライザー教材名が表示されます。送出先は、操作手順2で選択したアナライザーの実行対象の学習者となり、アナライザー教材を送出します。
- ③ アナライザー教材が再生されます。ポーズの実行が始まると、アナライザーパネルの [ 回答受付 ] ボタンが自動的にON状態になり、学習者側で回答できるようになります。  
ポーズ時間が終わると回答受付が締め切られ、学習者に結果が通知されます。 [ 締切 ] ボタンは、ポーズ時間終了前でも、手動で押すことができます。
- ④ アナライザー教材を終了する場合は、[ 教材1 ] タブで再生を止め、送出を終了してください。

## ＼遅刻者を参加させるには＼

遅刻表示の学習者は、アナライザーに参加できません。参加させるには、いったんアナライザーモードを終了し、出席手続パネルで遅刻者組み入れを行ってから、あたためてアナライザーモードに入ってください。出席締切を行っていない場合でも、アナライザーモード中に出席した学習者は対象となりません。次回のアナライザーモードから対象となります。

## チームティーチングを行う (チームティーチングモード)

1つのクラスを2人の先生が分担して授業を進めることができるモードです。クラスをメインチームとサブチームに分け、それぞれ1人ずつ先生が担当します。メインの先生(制御パソコン)は、クラス全体をコントロールできます。コミュニケーションは、自分の担当チームの学習者のみと行えます。

### 注意

チームティーチングモードは、補助制御パソコンが接続されたシステム構成のみで実行できる授業モードです。また、チームティーチングモードを開始するには、補助制御パソコンでソフトを起動し、トップメニュー画面を開いた状態にしておく必要があります。詳しくは、「補助制御パソコン編」(146ページ)をお読みください。

### チームの分けかた

1. 授業モードパネルの [ チームティーチング ] ボタンを押します。



チーム分け選択パネルが表示されます。

2. クラスのチーム分けのパターンを選択し、[ OK ] ボタンを押します。



#### [ 縦2分割 M/S ] ボタン

: クラスを縦に2分割し、画面向かって左側のチームをメインチーム、右側のチームをサブチームとします。

#### [ 縦2分割 S/M ] ボタン

: クラスを縦に2分割し、画面向かって左側のチームをサブチーム、右側のチームをメインチームとします。

[ 横2分割 M/S ] ボタン 

: クラスを横に2分割し、画面向かって手前のチームをメインチーム、奥のチームをサブチームとします。

[ 横2分割 S/M ] ボタン 

: クラスを横に2分割し、画面向かって手前のチームをサブチーム、奥のチームをメインチームとします。

## [ 手動 ] ボタン

: チームを自由に構成します。詳しくは、「チーム分けを自由に設定したいときは」(☞88ページ)をお読みください。

## [ カスタム ] ボタン

: チーム分けをあらかじめ登録してあるカスタムパターンで設定します。詳しくは、「あらかじめ登録してあるチーム分けに設定したいときは」(☞88ページ)をお読みください。

チーム分け選択パネルが閉じ、チームティーチング開始処理パネルが表示されます。開始準備が整うと、チームティーチングパネルが表示されます。

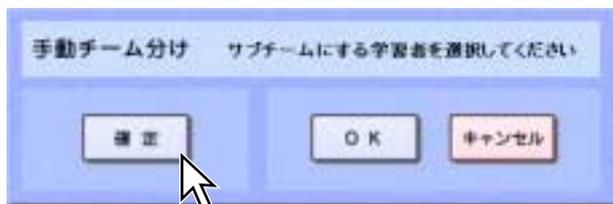
制御パソコンではサブチームの学習者が選択操作不可(グレー表示: )となります。

補助制御パソコンでは、メインチームの学習者が選択操作不可となります。



＼チーム分けを自由に設定したいときは＼

チーム分けを自由に設定したいときは、操作手順2のチーム分け選択パネルで[手動]ボタンを押します。[OK]ボタンを押すと、次のパネルが表示されます。



サブチームにしたい学習者アイコンを押し、[確定]ボタンを押します。一度サブチームにした学習者は、再度選択すると設定を解除できます。サブチームにする学習者を全て設定したら、[OK]ボタンを押し、パネルを閉じます。

＼あらかじめ登録してあるチーム分けに設定したいときは＼

チーム分けをあらかじめ登録してあるカスタムパターンで設定したいときは、操作手順2のチーム分け選択パネルで[カスタム]ボタンを押します。押すと、次のパネルが表示されます。



設定したいカスタムパターンのボタンを押します。カスタムパターンは、システム運用管理の「講義/クラス別設定」で登録できます。詳しくは、「別冊の取扱説明書」をお読みください。

## チームティーチングパネルの使いかた

チームティーチングモードでは、自分のチームの学習者とのコミュニケーションの他に、自分のチームの学習者全員に話しかける [チームコール] ボタン、もう1人の先生に呼びかける [先生コール] ボタンが使用できます。

### ＼注意＼

オールコールは制御パソコンからのみ行うことができ、全学習者とサブチームの先生への呼びかけとなります。オールコール中、補助制御パソコンでの操作は行えません。

### ＼自分のチームの学習者全員に話しかけるには [チームコール] へ＼

①チームティーチングパネルの [チームコール] ボタンを押します。



②ヘッドセットを使って話しをします。

③話しを終了するとき、[クリア] ボタンを押します。

### ＼教材の音声を送出しているときは＼

教材を送出しているときは教材の音声はカットされ、先生の声に切り換わります。ただし、教材の送出手は継続しています。チームコールを終了すると、再び教材が聞こえます。

### ＼注意＼

- 学習者が自分で教材の録音・再生、またはオンデマンド学習をしているときにチームコールを行うと、録音・再生やオンデマンド学習は終了します。ただし、制御パソコンの操作による一斉録音は継続します。
- チームコール中は、学習者パソコンのマウス・キーボードはロックされます。

### ＼もう1人の先生に呼びかけるには [先生コール] へ＼

①チームティーチングパネルの [先生コール] ボタンを押します。

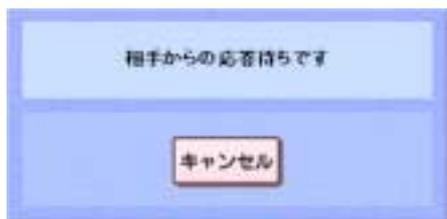


応答待ちパネルが表示されます。相手のパソコンでは、先生アイコンがコール要求表示  となります。

- ②相手の先生が [ 先生コール ] ボタンを押すと、応答待ちパネルが閉じて、先生同士がインカム（通話）状態となります。
- ③通話を終了するには、どちらかの先生のパソコンで [ クリア ] ボタンを押します。

＼先生コールを取り消すには、

応答待ちパネルで [ キャンセル ] ボタンを押すと、先生コールを取り消すことができます。



## 終了のしかた

- ①チームティーチングパネルの [ 終了 ] ボタンを押します。

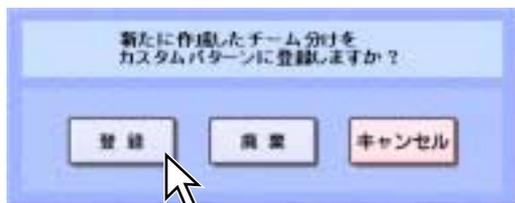


制御パソコン、補助制御パソコンともチームティーチング終了処理パネルが表示され、準備が整うとチームティーチングパネルが閉じます。  
[ 終了 ] ボタンは、制御パソコンでのみ押すことができます。

＼チーム分けを手動で行うと、

チーム分け選択パネルで [ 手動 ] ボタンを使って、チーム分けを自由に行うと、チームティーチングを終了する際に、次のようなパネルが表示されます。作成したチーム分けを登録することができます。

- ① [ 登録 ] ボタンを押します。



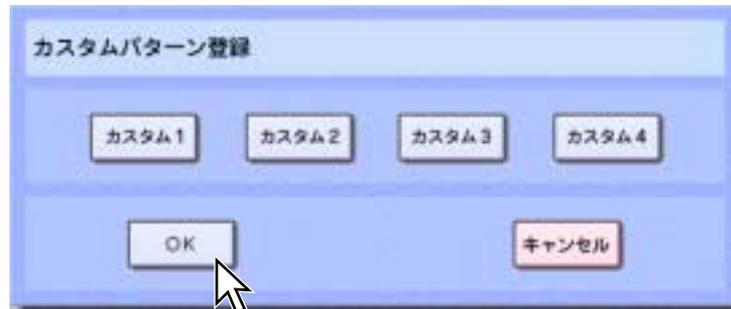
[ 廃棄 ] ボタン

：作成したチーム分けをカスタムパターンに登録せず、チームティーチングモードを終了します。

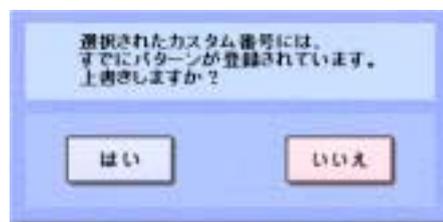
[ キャンセル ] ボタン

：終了操作を中止し、パネルを閉じます。

②作成したチーム分けを登録するカスタム番号を押し、[ OK ] ボタンを押します。



カスタムパターンとして登録され、チームティーチングモードが終了します。  
選択したカスタム番号に、すでにチーム分けパターンが登録されていた場合には、次のパネルが表示されます。



[ はい ] ボタン

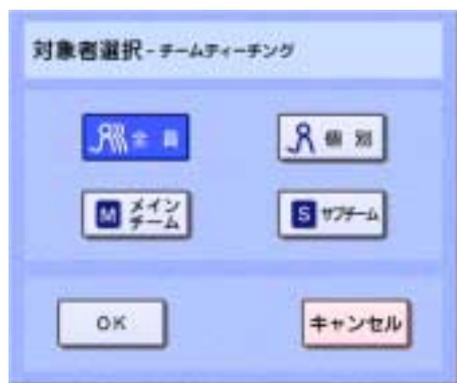
: あらたに作成したチーム分けをカスタムパターンとして登録し、チームティーチングモードを終了します。

[ いいえ ] ボタン

: 登録を行わず、カスタムパターン登録パネルに戻ります。他のカスタム番号を押してください。

## その他の操作

チームティーチングモードでは、制御パソコンからのみ、教材送出、オンデマンド、ファイル配布/回収が行えます。送出先、開放先、配布先、回収元の対象者選択では、全員/個別の他、ユニットの代わりにメインチームとサブチームが選択できます。



また、管理パネルでは環境コントロールの操作が行えます。

### ＼遅刻者をチームに入れるには＼

遅刻者をそれぞれのチームに組み入れるには、チームティーチングを一度終了してから、出席手続きパネルで遅刻者組み入れを行い、改めてチームティーチングモードに入ってください。遅刻者表示のままではチームには入れません。

出席締め切りを行っていない場合には、チームティーチング中に出席した学習者は、すぐにチームに組み入れられますが、そのとき操作中の対象とはなりません。次の操作から対象となります。

### ＼注意＼

全員、またはサブチームに対する教材送出中に [教材1(2)] タブの [マイク] ボタンを押して、先生の声ミックスさせたとき、補助制御パソコン上での操作は行えません。



# 管理機能

ここでは、管理機能の内容や操作方法について説明します。

## もくじ

学習者管理機能を使用する .....	94
教材の再生速度を指定する [スピードコントロール] .....	94
学習者の操作を禁止する [操作ロック] .....	97
学習者の評価を記録する [評価] .....	100
学習者の情報を確認・メモする [情報] .....	103
授業管理機能を使用する .....	105
教室内の設備をリモコン操作する [環境コントロール] .....	105
操作チャイムのON / OFFを設定する [チャイム音設定] ...	107
オートモニターの設定を変更する [オートモニター設定] ..	109
ユニットパターンを設定を変更する [ユニットパターン設定] ..	111

# 学習者管理機能を使用する

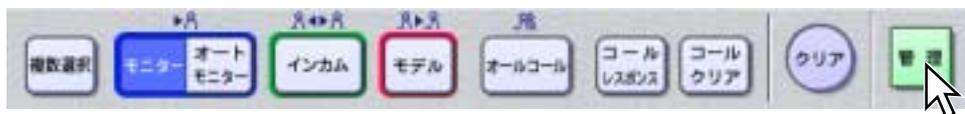
学習者管理機能には、次のようなものがあります。

- 教材の再生速度を指定する（スピードコントロール）(☞94ページ)
- 学習者の操作を禁止する（操作ロック）(☞97ページ)
- 学習者の評価を記録する（評価）(☞100ページ)
- 学習者の情報を確認したりメモしたりする（情報）(☞103ページ)

## 教材の再生速度を指定する [スピードコントロール]

学習者パソコンに録音された教材の再生速度を指定します。制御パソコンから再生速度を指定されると、学習者パソコンでは速度を変更できなくなります。スピードコントロールは、学習者パソコンに録音された教材にのみ有効です。オンデマンド学習でサーバーから直接教材を再生するときは、スピードコントロールはかかりません。

1. コミュニケーションパネルの [管理] ボタンを押します。



コミュニケーションパネルが管理パネルに切り替わります。

2. [スピードコントロール] ボタンを押します。



スピードコントロールパネルが表示されます。

3. 対象者を変更したいときは、[選択] ボタンを押します。  
変更しないときは、操作手順6へ進みます。



対象者選択パネルが表示されます。

## 4. 速度を指定する対象者を選択します。



- 学習者全員を対象とする場合は、[ 全員 ] ボタンを押し、[ OK ] ボタンを押します。対象者が学習者全員に設定され、対象者選択パネルが閉じます。操作手順6に進んでください。
- ユニットの学習者を対象とする場合は、それぞれ [ ユニット1 ] ボタンまたは [ ユニット2 ] ボタンを押し、[ OK ] ボタンを押します。対象者がユニットに設定され、対象者選択パネルが閉じます。操作手順6に進んでください。

## ◇注意◇

[ ユニット1 ] / [ ユニット2 ] ボタンは、あらかじめユニットパターン設定を行っていない場合は押せません。ユニットパターン設定は、システム運用管理の「授業運用設定」または管理パネルのユニットパターン設定で行えます。

- 個別に学習者を選択する場合は、[ 個別 ] ボタンを押し、[ OK ] ボタンを押します。対象者個別選択パネルが表示されます。

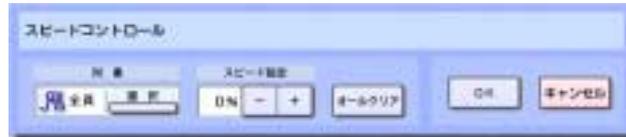
## 5. 対象にしたい学習者アイコンを押し、[ OK ] ボタンを押します。



対象者が設定され、対象者選択パネルが閉じます。

[ OK ] ボタンを押す前に一度選択した学習者アイコンを再度押すと、選択を解除できます。

## 6. スピードを設定します。



- スピードは - 30% ~ + 30%の間で5%単位で設定します。0%は教材オリジナルのスピードです。 - 30%に設定すると、1.3倍遅くなります。 + 30%に設定すると、1.3倍早くなります。

[ - ] ボタン：押すたびに5%ずつ減少します。

[ + ] ボタン：押すたびに5%ずつ増加します。

- 学習者全員の設定を0%にしたいときは [ オールクリア ] ボタンを押します。

## 7. [ OK ] ボタンを押します。



設定が確定し、スピードコントロールパネルが終了します。学習者パソコンでは設定された速度から変更できなくなります。

＼遅刻者の教材の再生速度を指定するには＼

遅刻表示の学習者は、再生速度をスピードコントロールできません。出席手続パネルで遅刻者組み入れを行ってください。遅刻者表示のままでは、学習者全員の対象になりません。また個別選択の対象にもなりません。

＼注意＼

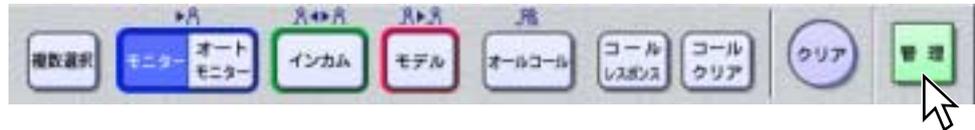
スピードコントロール設定時に学習者パソコンで録音や再生などの操作が行われていた場合、録音 / 再生は停止されます。

また、スピードを0%以外に変更したとき、学習者パソコンでの再生音声は、常にモノラルになります。

## 学習者の操作を禁止する [ 操作ロック ]

学習者のパソコンを操作できないようにします。

1. コミュニケーションパネルの [ 管理 ] ボタンを押します。



コミュニケーションパネルが管理パネルに切り替わります。

2. [ 操作ロック ] ボタンを押します。



操作ロックパネルが表示されます。

3. 対象者を変更したいときは、[ 選択 ] ボタンを押します。  
変更しないときは、操作手順6へ進みます。



対象者選択パネルが表示されます。

4. 禁止設定する対象者を選択します。



- 学習者全員を対象とする場合は、[ 全員 ] ボタンを押し、[ OK ] ボタンを押します。対象者が学習者全員に設定され、対象者選択パネルが閉じます。操作手順6に進んでください。

- ユニットの学習者を対象とする場合は、それぞれ [ ユニット1 ] ボタンまたは [ ユニット2 ] ボタンを押し、[ OK ] ボタンを押します。対象者がユニットに設定され、対象者選択パネルが閉じます。操作手順6に進んでください。

◇注意◇

[ ユニット1 ] / [ ユニット2 ] ボタンは、あらかじめユニットパターン設定を行っていない場合は押せません。ユニットパターン設定は、システム運用管理の授業運用設定または管理パネルのユニットパターン設定で行えます。

- 個別に学習者を選択する場合は、[ 個別 ] ボタンを押し、[ OK ] ボタンを押します。対象者個別選択パネルが表示されます。

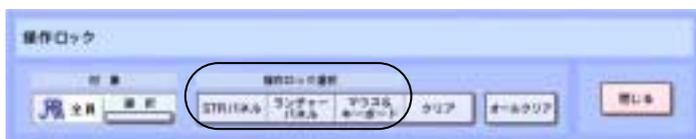
5. 対象にしたい学習者アイコンを押し、[ OK ] ボタンを押します。



対象者が設定され、対象者選択パネルが閉じます。

[ OK ] ボタンを押す前に一度選択した学習者アイコンを再度押すと、選択を解除できます。

6. 操作ロックを選択します。



操作ロックは後から押したボタンが優先されます。

[ STRパネル ] ボタン

: STRパネルのすべての操作を禁止します。設定すると学習者アイコンが  になります。

[ ランチャーパネル ] ボタン

: ランチャーパネルの [ STR ] ボタンと [ コール ] ボタン以外の操作を禁止します。設定すると学習者アイコンが  になります。

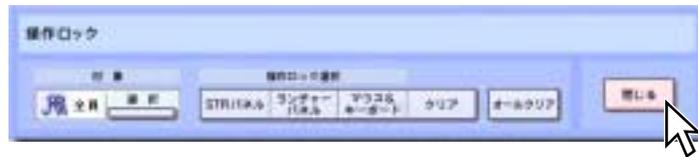
## [ マウス&amp;キーボード ] ボタン

: パソコンのすべての操作を禁止します。設定すると学習者アイコンが  になります。

## \\注意\\

教材を送出中は教材送出手続きが優先され、操作ロックできません。

## 7. [ 閉じる ] ボタンを押します。



操作ロックパネルが閉じます。

## \\ロックを解除するときは\\

対象者別に解除したいときは [ クリア ] ボタンを押します。学習者全員のロックを一度に解除したいときは [ オールクリア ] ボタンを押します。



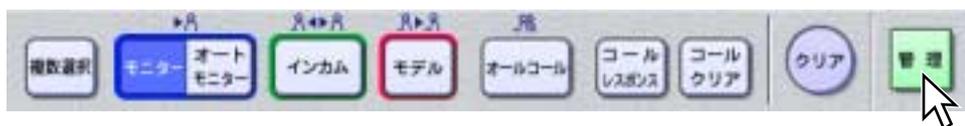
## \\遅刻者の操作を禁止するには\\

遅刻表示の学習者は、操作ロックできません。出席手続パネルで遅刻者組み入れを行ってください。遅刻者表示のままでは学習者全員の対象になりません。また個別選択の対象にもなりません。

## 学習者の評価を記録する [ 評価 ]

学習者を評価して、評価内容をデータで保存します。評価データについては「付録 授業データについて」(☞150ページ)をお読みください。

1. コミュニケーションパネルの [ 管理 ] ボタンを押します。



コミュニケーションパネルが管理パネルに切り替わります。

2. [ 評価 ] ボタンを押します。



授業で初めて [ 評価 ] ボタンを押した場合は、すぐに学習者評価パネルが表示されます。2回目以降の場合は前回評価したデータを読み込むかどうか、確認するパネルが表示されます。詳しくは「同じ授業で2回目以降の評価の場合」(☞102ページ)をお読みください。

3. 対象とする学習者の学習者アイコンを押します。

選択された学習者アイコンが  になり、学習状況がモニターできる状態になります。

4. [1] ~ [5] の評価ボタンを押し、評価します。



選択されたアイコンが  (評価値が表示) に変わります。  
複数の学習者を評価するときは、操作手順3、4を繰り返します。

＼評価を無効にするときは＼

学習者個別に無効にしたいときは、学習者アイコンを選択し、[クリア] ボタンを押します。学習者全員の評価を無効にしたいときには [オールクリア] ボタンを押します。

5. [終了] ボタンを押します。



評価データ保存確認パネルが表示されます。

6. [新規保存] ボタンを押します。



[上書き保存] ボタン

: 既存のデータファイルに上書き保存し、学習者評価パネルが閉じます。評価データが保存されている場合にのみ押せる状態になります。

[廃棄] ボタン

: データを保存せずに廃棄して、学習者評価パネルが閉じます。

[キャンセル] ボタン

: 学習者評価に戻ります。

自動的にファイル名をつけて、保存されます。学習者評価データについては、「付録 授業データについて」(P.150ページ)をお読みください。

＼同じ授業で2回目以降の評価の場合＼

操作手順2で [ 評価 ] ボタンを押すと、次のパネルが表示されます。



[ はい ] ボタン

: 前回保存された評価データを読み込んで、学習者評価パネルを表示します。学習者アイコンには前回の評価値が表示されます。

[ いいえ ] ボタン

: 前回保存された評価データを読み込まずに、学習者評価パネルを表示します。

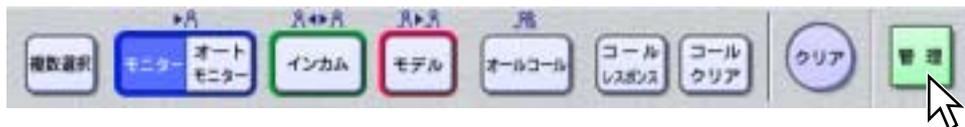
[ キャンセル ] ボタン

: 操作がキャンセルされます。学習者評価パネルは表示されません。

## 学習者の情報を確認・メモする [ 情報 ]

学習者パソコンで現在使用しているウィンドウを確認したり、学習者の個人情報を保存します。情報の内容は学習者情報データとして保存します。学習者情報データについては「付録 授業データについて」(☞150ページ)をお読みください。

1. コミュニケーションパネルの [ 管理 ] ボタンを押します。



コミュニケーションパネルが管理パネルに切り替わります。

2. [ 情報 ] ボタンを押します。



学習者情報パネルが表示されます。

3. 対象とする学習者の学習者アイコンを押します。

選択された学習者アイコンが  になります。学習者情報パネルにその学習者に関する情報が表示されます。



[ 現在使用中のウィンドウ ]

: 学習者のパソコンでアクティブになっているウィンドウのタイトルが表示されます。

情報表示欄

: 以前保存した内容が表示されます。

4. [ 編集 ] ボタンを押します。



情報表示欄にキャレットが表示され、キーボードからの文字入力が可能になります。

5. キーボードで文字を入力します。
  - 入力できる文字数は1行あたり全角16文字（半角30文字）以内です。
  - 入力モードを変更する場合は、ALTキーを押しながら半角／全角キーを押します。
6. 他の学習者の情報を確認、入力したいときは、他の学習者の学習者アイコンを押します。

次のパネルが表示されます。



- [ 保存 ] ボタン : 入力した情報を保存して、次の学習者の情報を表示します。
- [ 廃棄 ] ボタン : 入力した情報を保存せずに廃棄して、次の学習者の情報を表示します。
- [ キャンセル ] ボタン : 次の学習者の情報を表示しません。

7. 情報を確認・入力する学習者を選択し、操作手順4、5、6を繰り返します。
8. [ 閉じる ] ボタンを押します。



学習者情報パネルが閉じます。

最後に入力した学習者の情報に関しても次のパネルが表示されます。各ボタンを押した場合の動作は次のようになります。



- [ 保存 ] ボタン : 入力した情報を保存して、学習者情報パネルを閉じます。
- [ 廃棄 ] ボタン : 入力した情報を保存せずに廃棄して、学習者情報パネルを閉じます。
- [ キャンセル ] ボタン : 学習者情報パネルに戻ります。

# 授業管理機能を使用する

授業管理機能には、次のようなものがあります。

- 教室内の設備をリモコン操作する（環境コントロール）(☞105ページ)
- 操作チャイム音のON / OFFを設定する（チャイム音設定）(☞107ページ)
- オートモニターの設定を変更する（オートモニター設定）(☞109ページ)
- ユニットパターンを設定を変更する（ユニットパターン設定）(☞111ページ)

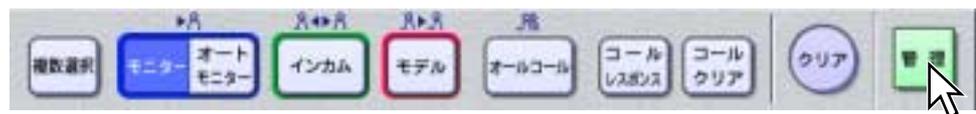
## ＼注意＼

管理パネルの授業管理機能で設定した内容は、現在行っている授業でのみ有効です。毎回の授業について設定したい場合は、システム運用管理「先生別設定」や「講義 / クラス別設定」で登録してください。詳しくは「別冊 システムソフト 取扱説明書」をお読みください。

## 教室内の設備をリモコン操作する [ 環境コントロール ]

システム設置時に設定された内容に従って、教室内の設備を制御パソコンからリモートコントロールします。スクリーンの操作や照明に関する操作などをリモートコントロールできます。詳しくは「別冊 システムソフト 取扱説明書」をお読みください。

1. コミュニケーションパネルの [ 管理 ] ボタンを押します。



コミュニケーションパネルが管理パネルに切り替わります。

2. [ 環境コントロール ] ボタンを押します。



環境コントロールパネルが表示されます。あらかじめ設定されたアイコンと名称が表示されます。

- リモコン操作したいボタンを押します。



設定内容に従って動作します。設定によってはボタンを押すたびに状態が切り替わるもの（例：照明のON / OFF）や、押すと動作が開始され他のボタンを押すと動作が停止するもの（スクリーンアップ / スクリーン停止）などがあります。

- [ 閉じる ] ボタンを押します。

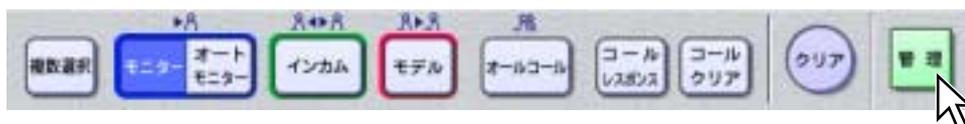


環境コントロールパネルが閉じます。

## 操作チャイムのON / OFFを設定する [チャイム音設定]

操作を行ったときにチャイムが流れるようにしたり、流れないようにしたりします。設定は現在行っている授業でのみ有効です。毎回の授業について設定したい場合は、システム運用管理の「先生別設定」で登録を行ってください。詳しくは、「別冊 システムソフト取扱説明書」をお読みください。

1. コミュニケーションパネルの [ 管理 ] ボタンを押します。



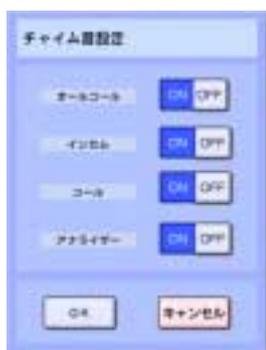
コミュニケーションパネルが管理パネルに切り替わります。

2. [チャイム音設定] ボタンを押します。



チャイム音設定パネルが表示されます。

3. 各チャイム音のON / OFFを設定します。



各チャイム音の [ON] ボタン、[OFF] ボタンを押します。

オールコール

： [オールコール] ボタンまたは [チームコール] ボタンを押したときに、全員のヘッドセットにチャイム音を流すかどうか設定します。

インカム

： インカム状態になったときに、選択した学習者と先生のヘッドセットにチャイム音を流すかどうか設定します。

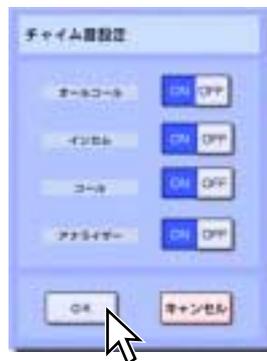
### コール

：学習者が [ コール ] ボタンを押したとき、または先生が [ 先生コール ] ボタンを押したときに、先生のヘッドセットにチャイム音を流すかどうか設定します。

### アナライザー

：アナライザーモード中、[ 回答受付 ] ボタンと [ 締切 ] ボタンを押したときに、対象者と先生のヘッドセットにチャイム音を流すかどうか設定します。アナライザーモードについては「第2章授業モード 出題に対する回答状況を確認しながら授業を行う」(☞76ページ)をお読みください。

#### 4. [ OK ] ボタンを押します。



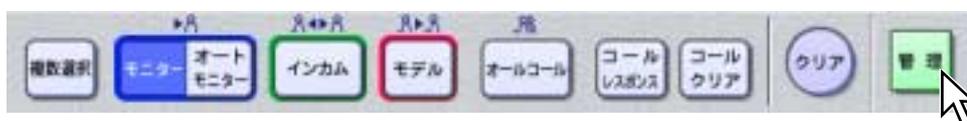
設定が登録され、チャイム音設定パネルが閉じます。

## オートモニターの設定を変更する [ オートモニター設定 ]

オートモニターでは、学習者の学習状況をモニターする際、設定した時間と方向に従って、自動的にモニターする学習者が切り替わります。オートモニターの操作のしかたは「第1章授業を行う 学習状況を確認する」( 19ページ )をお読みください。

ここでは、モニターの対象者が次の対象者に切り替わるまでの時間と切り替わる方向を設定します。設定は現在行っている授業でのみ有効です。毎回の授業について設定したい場合は、システム運用管理の「先生別設定」で登録を行ってください。詳しくは、「別冊 システムソフト取扱説明書」をお読みください。

1. コミュニケーションパネルの [ 管理 ] ボタンを押します。



コミュニケーションパネルが管理パネルに切り替わります。

2. [ オートモニター設定 ] ボタンを押します。



オートモニター設定パネルが表示されます

3. モニター時間・モニター方向を設定します。



- モニター時間は対象者が切り替わる時間を設定します。5秒～60秒の間、5秒単位で設定します。

[ - ] ボタン : 押すたびに5秒ずつ減少します。

[ + ] ボタン : 押すたびに5秒ずつ増加します。

- モニター方向は対象者が切り替わる方向を設定します。

[ 縦 ] ボタン : 縦方向に対象者が切り替わります。

[ 横 ] ボタン : 横方向に対象者が切り替わります。

4. [OK] ボタンを押します。



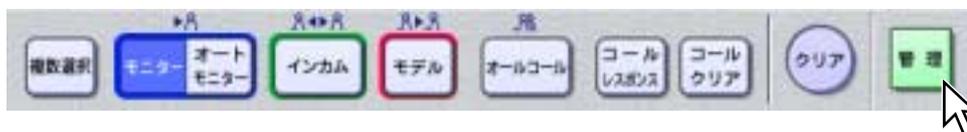
設定が登録され、オートモニター設定パネルが閉じます。

## ユニットパターンを設定を変更する [ ユニットパターン設定 ]

ユニットとは、クラスの学習者を最大2つのグループに分けた場合の単位です。それぞれのユニットに対して、モデルや教材送付、オンデマンド、スピードコントロールなどの操作を行うことができます。また、会話練習やアナライザーモードをユニット別に行うこともできます。

ここでは、ユニットの分けかたを設定します。設定は、現在行っている授業でのみ有効です。毎回の授業について設定したい場合は、システム運用管理の「講義/クラス別設定」で登録を行ってください。詳しくは、「別冊 システムソフト取扱説明書」をお読みください。

1. コミュニケーションパネルの [ 管理 ] ボタンを押します。



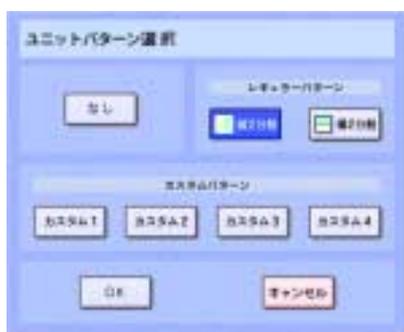
コミュニケーションパネルが管理パネルに切り替わります。

2. ユニットパターン [ 選択 ] ボタンを押します。



ユニットパターン設定パネルが表示されます

3. 設定したいパターンを選択し、[ OK ] ボタンを押します。



### [ なし ] ボタン

: ユニットパターンを設定しません。対象者選択パネルで [ ユニット1 ] ボタンと [ ユニット2 ] ボタンは押せなくなります。

## [ 縦2分割 ] ボタン

: クラスを縦に2分割し、画面向かって左側の学習者をユニット1、右側の学習者をユニット2に設定します。

## [ 横2分割 ] ボタン

: クラスを横に2分割し、画面向かって下側の学習者をユニット1、上側の学習者をユニット2に設定します。

## [ カスタム1~4 ] ボタン

: ユニットの設定を、あらかじめ登録してあるカスタムパターンに設定します。カスタムパターンの登録は、システム運用管理の「講義/クラス別設定」で登録を行ってください。詳しくは、「別冊 システムソフト取扱説明書」をお読みください。

ユニットパターン選択パネルが閉じ、ユニットパターンが設定されます。

ユニット1に属する学習者の学習者アイコンは、 (黄色)

ユニット2に属する学習者の学習者アイコンは、 (緑色) になります。



# オープンルーム

ここでは、教材を開放して学習者に自習をさせる方法について説明します。

## もくじ

オープンルームを開始する ..... 114

# オープンルームを開始する

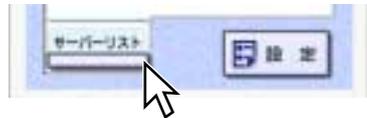
1. オープンルームを開始するには、制御パソコンのトップメニュー画面で、[ オープンルーム ] ボタンを押します。  
システムの起動方法、認証方法は、「第1章授業を行う 授業を開始する」(12ページ)をお読みください。



オープンルーム画面が表示されます。



2. [ オンデマンド ] タブで開放する教材を選択し、[ サーバーリスト ] ボタンを押します。



サーバー教材選択パネルが表示されます。教材の選択方法、プレモニター、プレビューの方法は、「第1章授業を行う 教材を使って授業する 学習者にオンデマンド学習（自習）をさせる」(46ページ)をお読みください。

3. 開放する教材を選択し、[ OK ] ボタンを押します。

教材表示欄に、選択された教材名が表示されます。

4. [ 開放 ] ボタンを押します。



学習者に教材が開放されます。学習者が学習者パソコンの電源を入れ、ソフトを起動すると、STRパネルとサーバー教材選択パネルが表示されます。学習者が教材を再生すると、学習者アイコンが   に切り替わり、学習を開始したことがわかります。

また、学習者がSTRパネルを操作して教材を利用した個別学習を行うと、学習者アイコンが操作に応じて変わります。



: 学習者は録音を行っています。

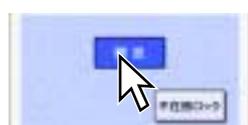


: 学習者はPRAC機能を使って、教材に自分の声を重ねて録音しています。



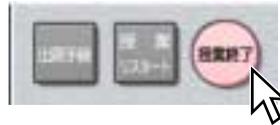
: 学習者はPRL機能を使って、教材の一部を指定し繰り返し再生しています。

5. 開放を止めるときは、再度 [ 開放 ] ボタンを押します。



開放が終了します。学習者パソコンではサーバー教材選択パネルが閉じ、[ サーバー ] ボタンが押せなくなります。

6. オープンルームを終了するときには、[ 授業終了 ] ボタンを押します。



トップメニュー画面が表示されます。このとき学習者パソコンは、システム運用管理の「先生別設定」によって、次の3つのいずれかの動作になります。

- 認証入力パネルに戻る
- Windows画面に戻る
- 電源OFFする

#### ＼注意＼

オープンルームでは、学習者とのコミュニケーション機能や管理機能、授業コントロール機能は使用できません。

#### ＼教材開放に関する設定を変更したいときは＼

開放する教材の添付コメントとテキストを表示する／しないの設定を変更できます。[ オンデマンド ] タブの [ 設定 ] ボタンを押すと、開放設定パネルが表示されます。開放設定の対象は、選択した全ての教材となります。



#### コメント表示設定

[ ON ] ボタン : サーバー音声教材、アナライザー教材に添付されているコメントを学習者パソコンに表示させます。

[ OFF ] ボタン : サーバー音声教材、アナライザー教材に添付されているコメントを学習者パソコンに表示させません。

#### テキスト表示設定 ( WBT型教材に添付されているテキスト1、テキスト2が対象 )

[ ON ] ボタン : WBT型教材に添付されているテキストを学習者パソコンに表示させます。

[ OFF ] ボタン : WBT型教材に添付されているテキストを学習者パソコンに表示させません。

## [OK] ボタン

: 設定を変更して、開放設定パネルを閉じます。

## [キャンセル] ボタン

: 設定をキャンセルして、開放設定パネルを閉じます。

＼途中で教室を離れるときは＼

教材開放した後、学習者に自習をさせたまま教室を離れるときは、制御パソコンを誤操作されないように、操作をロックしておくことができます。

① [ オンデマンド ] タブで、[ 不在時ロック ] ボタンを押します。



認証入力パネルが表示され、制御パソコンの操作は一切できなくなります。



② 不在時ロックを解除するには、先にログインしていた先生のユーザー名、パスワードを入力し、[ ログイン ] ボタンを押します。



## 第5章

# 画面転送機能 （拡張機能）

ここでは、画面転送コントロールソフト（WE-AS861）と、（株）アイ・ディ・ケイ社製 EdViNS2 システムを使用して画面転送する方法について説明します。

## もくじ

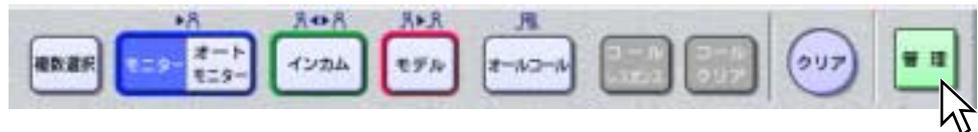
画面転送に関する各項目を設定する ...	119
学習者パソコン画面を確認する .....	121
指定した学習者パソコン画面を 他の学習者パソコン画面に表示させる .	122
指定した学習者パソコンの キーボード・マウスを制御する .....	123
全学習者パソコン画面を ブラックアウト状態にする .....	124
学習者パソコンにAV教材の映像を 送出する .....	125

## 画面転送に関する各項目を設定する

画面転送 / キーボードリモコン / ブラックアウト（オールコール） / 画面切換ロックを設定（ON/OFF）します。

設定した内容は、次回の操作から有効になります。

1. コミュニケーションパネルの [ 管理 ] ボタンを押します。



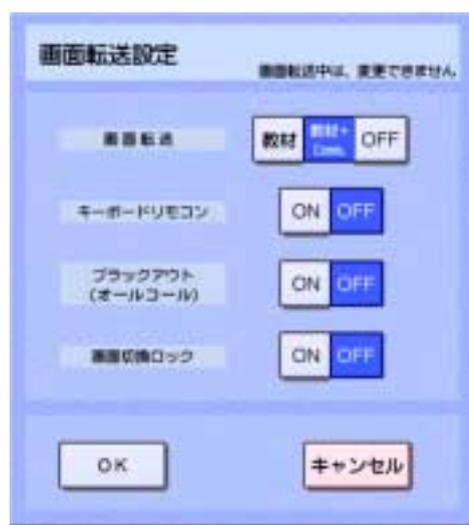
コミュニケーションパネルが、管理パネルに切り替わります。

2. [ 画面転送設定 ] ボタンを押します。



画面転送設定パネルが表示されます。

3. 各項目を設定します。



**画面転送 [ 教材 ] ボタン**

：教材送出と連動して、映像教材を画面転送する場合に設定します。

**画面転送 [ 教材 + Comm. ] ボタン**

：教材送出時の画面転送の他に、コミュニケーションと連動して、指定した学習者パソコンの画面を画面転送する場合に設定します。

**画面転送 [ OFF ] ボタン**

：画面転送を行わない場合に設定します。

**キーボードリモコン**

：インカム / コールレスポンス / 認証エラー者の通話時に、先生パソコンのキーボード・マウスで、対象学習者パソコンを制御するかどうかを設定します。

**ブラックアウト**

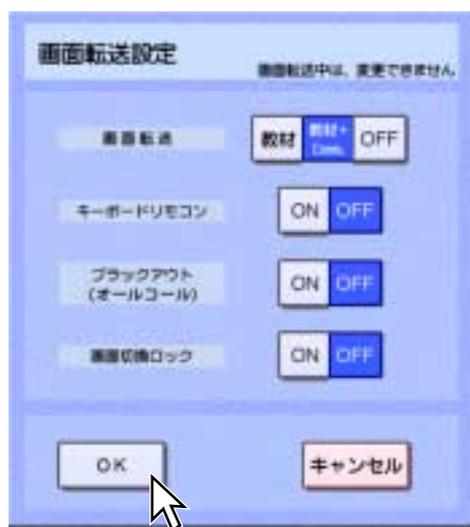
：[ オールコール ] ボタンを押したときに、全員の学習者パソコン画面をブラックアウトにするかどうかを設定します。

**画面切換ロック**

：学習者用ローカルステーションの [ 切換 ] ボタンで、自分のパソコン画面と送られている画面の切り替えを許可するかどうかを設定します。  
教材送出時、モデル実行時に切り替えが可能です。

**4. [ OK ] ボタンを押します。**

画面転送設定パネルが閉じ、設定した項目が次回の操作から有効になります。

**注意**

画面転送実行中は、設定を変更することができません。

## 学習者パソコン画面を確認する

モニター/インカム/認証エラー者の通話/学習者評価操作時に、指定した学習者パソコン画面を先生用モニターディスプレイに表示します。  
ここでは、モニター操作について説明します。

1. コミュニケーションパネルの [ モニター ] ボタンを押します。



2. モニターしたい学習者アイコンを押します。

対象者の学習者アイコンが （モニター状態）になり、先生用モニターディスプレイに対象者の学習者パソコン画面を表示します。

3. モニターを終了するときは、[ クリア ] ボタンを押します。



＼別の学習者パソコン画面に切り替えるときは＼

別の学習者アイコンを押すと、対象者が切り替わります。

＼自動的に学習者パソコン画面を確認したいときは＼

コミュニケーションパネルの [ オートモニター ] ボタンを押すと、端末名が最も若い番号の学習者パソコンの画面から順番に、設定されている時間と方向に従って、先生用モニターディスプレイに表示されます。

＼複数の学習者と同時に会話するときは＼

- コミュニケーションパネルの [ インカム ] ボタンを押してから、[ 複数選択 ] ボタンと、会話をしたい学習者アイコンを押します。
- 最後に選択した学習者の学習者パソコン画面が、先生用モニターディスプレイに表示されます。

＼注意＼

会話練習/ディスカッション/チームティーチング/教材送出中は、先生用モニターディスプレイに表示されません。

# 指定した学習者パソコン画面を 他の学習者パソコン画面に表示させる

1. コミュニケーションパネルの [ モデル ] ボタンを押します。



2. モデルにしたい学習者アイコンを押します。

対象者の学習者アイコンが （モデル状態）になります。モデル対象者の学習者パソコン画面を他の学習者パソコンと先生用モニターディスプレイに表示します。

センターモニターシステムの場合、モデル対象者の学習者パソコン画面が全てのセンターモニターに表示されます。

＼別の対象者に切り替えるときは＼

別の学習者アイコンを押すと、対象者が切り替わります。ユニットパターンが設定されているときに異なるユニットに属する学習者をモデルにした場合、対象になるユニットも切り替わります。

＼複数の学習者を同時にモデルにしたいときは＼

- コミュニケーションパネルの [ モデル ] ボタンを押してから、[ 複数選択 ] ボタンと、モデルにしたい学習者アイコンを押します。
- 最後に選択した学習者の学習者パソコン画面が、他の学習者パソコンと先生用モニターディスプレイに表示されます。

＼注意＼

会話練習 / ディスカッション / チームティーチング / 教材送出中は、モデル対象者の学習者パソコンの画面を、他の学習者パソコン画面、先生用モニターディスプレイに表示しません。

# 指定した学習者パソコンのキーボード・マウスを制御する

インカム / コールレスポンス / 認証エラー者通話操作時に、先生パソコン画面のキーボード・マウスで、指定した学習者パソコンを操作することができます。  
ここでは、インカム操作について説明します。

1. コミュニケーションパネルの [ インカム ] ボタンを押します。



2. インカムにしたい学習者アイコンを押します。

対象者の学習者アイコンが （インカム状態）になり、先生用モニターディスプレイに対象者の学習者パソコン画面を表示します。  
先生パソコンのキーボード・マウスで、対象者の学習者パソコンを操作できます。

3. インカムを終了するときは、[ クリア ] ボタンを押します。



＼別の学習者パソコン画面に切り替えるときは、

別の学習者アイコンを押すと、操作する学習者パソコンが切り替わります。

＼注意、

会話練習 / ディスカッション / チームティーチング / 教材送出中は、先生パソコンのキーボード・マウスで学習者パソコンを操作できません。

# 全学習者パソコン画面を ブラックアウト状態にする

学習者パソコン画面をブラックアウト状態にします。

1. コミュニケーションパネルの [ オールコール ] ボタンを押します。



学習者全員の学習者パソコン画面がブラックアウト状態になります。

2. 終了するときには、[ クリア ] ボタンを押します。



## ＼注意＼

教材送出中の場合でも、オールコールを開始すると学習者パソコン画面がブラックアウト状態になり、オールコールを終了すると、再び送出中の映像教材が学習者パソコン画面に表示されます。

# 学習者パソコンにAV教材の映像を送出する

ビデオ、DVDなどの映像教材や先生パソコンの画面を学習者パソコン画面に表示します。  
センターモニターシステムの場合、全てのセンターモニターに映像教材が表示されます。

1. [教材1] タブを押します。



[教材1] タブが前面に表示されます。

2. 表示されている教材から変更したいときは、[選択] ボタンを押します。



教材パネルが表示されます。

3. 送りたい教材のAV機器ボタンを押します。



AV機器が選択されます。

4. [ OK ] ボタンを押します。



教材選択パネルが閉じ、[ 教材1 ] タブの教材表示欄に、選択した教材が表示されます。

5. 送先を変更したいときは、送出先の [ 選択 ] ボタンを押します。



対象者選択パネルが表示されます。

6. 送出する対象者を選択して、[ OK ] ボタンを押します。



7. 送先先の [ 全員 ] ボタンを押します。

学習者送先ボタンは、ここでは [ 全員 ] と表示されていますが、[ 個別 ] [ ユニット1 ] などのように、対象者の表示が変わります。



8. [ VP ディスプレイ ] ボタンを押します。



ビデオプロジェクターと送先先の対象者の学習者パソコン画面に、AV教材の映像が表示されます。

＼センターモニターシステムの場合＼

対象者を [ 個別 ] [ ユニット1 ] などに設定しても、全てのセンターモニターに表示されます。

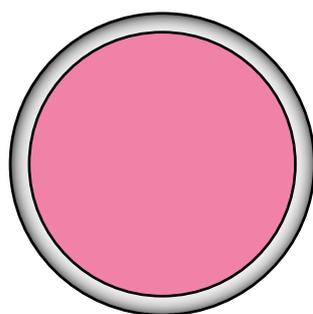
9. 学習者パソコン画面への映像教材送出を止めるときは、再度送先先の [ 全員 ] ボタンを押すか、[ VP ディスプレイ ] ボタンを押します。ただし、[ VP ディスプレイ ] ボタンのみを解除した場合は、学習者のヘッドセットにAV教材の音声は聞こえます。



＼注意＼

2つのユニット（ユニット1とユニット2またはチームティーミング時のメインチームとサブチーム）に対して、異なるAV教材を送出することはできません。最後に送操作を行ったユニットに対して、AV教材の映像が送られます。

## 先生パソコン編



# 操作方法

ここでは、起動のしかた、本ソフトの基本的な操作方法について説明します。

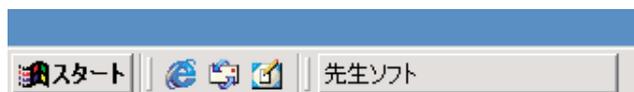
### もくじ

起動する .....	129
ランチャーパネルの使いかた .....	131
STRパネルを表示する .....	131
レポートフォルダーを表示する .....	133
操作マニュアルを表示する .....	136
アプリケーションを起動する .....	137
フォルダーボタンの使いかた .....	138
MS-IMEツールバーを表示する .....	139
ランチャーパネルを最小化する .....	140
開放する教材を確認する .....	141
配布するファイルを準備する .....	143
Windows画面に移る .....	144
終了する .....	145

# 起動する

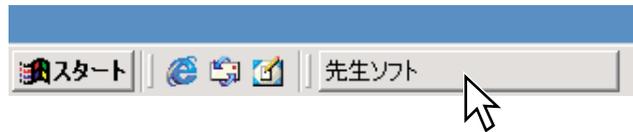
次の手順に従って、システムを起動します。

1. 教室のブレーカーを入れます。
2. 周辺機器（接続しているHUBやAV機器、プロセッサユニットなど）の電源を入れます。  
HUBの電源は、必ずサーバーより先に入れます。
3. オーディオサーバー、ファイル配信サーバーを起動します。  
サーバーの電源を入れて、パスワードを入力し、サーバーを起動します。（画面の指示に従って操作します）
4. 制御パソコンと補助制御パソコンの電源を入れ、制御ソフト、補助制御ソフトを起動します。
5. 先生パソコンの電源を入れ、デスクトップ上の [ L3 Stage ] アイコン  をダブルクリックします。  
  
先生ソフトが起動すると、Windowsのタスクバーにランチャーパネルが最小化表示されます。



6. 学習者パソコンの電源を入れます。

8. アイコンをダブルクリックします。



ランチャーパネルが表示されます。



# ランチャーパネルの使いかた

ここでは、ランチャーパネルで行う機能の内容とその操作方法について説明します。

＼注意＼

先生パソコンでは、[ コール ] ボタンは使用できません。

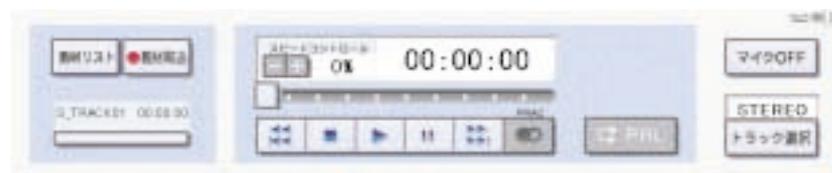
## STRパネルを表示する

サーバー音声教材やWBT型教材のプレモニターやプレビューは、このSTRパネルで行います。また、学習者はこのパネルを使ってサーバー音声教材やWBT型教材の学習を行います。STRパネルの詳細は、「開放する教材を確認する」( 141ページ )をお読みください。

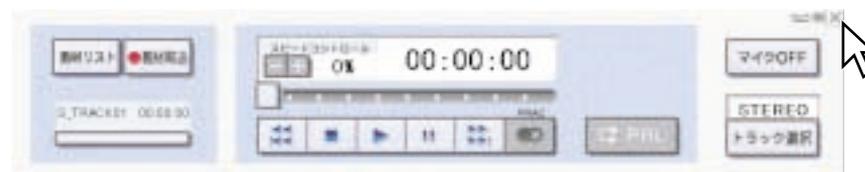
1. アプリケーションの [ STR ] ボタンをクリックします。



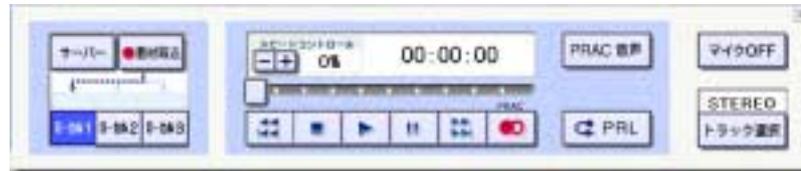
STRパネルが画面の下側に表示されます。音声教材に関する操作は主にこのSTRパネルで行います。



2. STRパネルを閉じるときは、[ × ] ボタン ( 閉じるボタン ) をクリックします。



WE-AS860をご使用の場合、下図のSTRパネルになります。



◇注意◇

制御パソコンで、オンデマンド開放する教材を選択して [ プレビュー ] ボタンを押すと、STRパネルは自動的に表示されます。

## レポートフォルダーを表示する

レポートフォルダーには、学習者パソコンから回収したファイルが保存されます。レポートフォルダーを表示すると、回収に使用したフォルダーが表示されます。

1. アプリケーションの [ レポート ] ボタンをクリックします。



レポートフォルダーが表示され、回収に使用したフォルダーが表示されます。回収したファイル / PRAC / 学習履歴の保存先は、下記「回収ホルダー」をお読みください。

2. レポートフォルダーを終了する場合は、Windows のエクスプローラの終了操作を行います。

＼回収フォルダー＼

PRAC回収ホルダーは、下図のようになります。



ファイル回收ホルダーは、下図のようになります。



学習履歴ホルダーは、下図のようになります。( AS862 )



- PRAC音声を回収した場合、以下のフォルダーの保存されます。  
先生トラック：「ファイル配信サーバー」¥Database¥Collect¥「先生ユーザー名」  
¥「講義/クラス名」¥Prac¥Teacher¥「日付・時刻」¥「学習者名」  
¥Prac1.wav ~ Prac20.wav  
学習者トラック：「ファイル配信サーバー」¥Database¥Collect¥「先生ユーザー名」¥「講義/クラス名」¥Prac¥Student¥「日付・時刻」¥「学習者名」¥Prac1.wav ~ Prac20.wav
- ファイルを回収した場合、以下のフォルダーの保存されます。  
「ファイル配信サーバー」¥Database¥Collect¥「先生ユーザー名」¥「講義/クラス名」¥File¥「日付・時刻」¥「学習者名」¥「提出されたファイル」
- 学習履歴を回収した場合、以下のフォルダーの保存されます。( AS862 )  
「ファイル配信サーバー」¥L3Stage¥database¥usr¥(先生ユーザー名)¥(クラス名)¥HIS¥「学習者名」¥AUD¥「提出された音声教材の学習履歴ファイル」
- WBT型教材の履歴：  
「ファイル配信サーバー」¥L3Stage¥database¥usr¥(先生ユーザー名)¥(クラス名)¥HIS¥「学習者名」¥WBT¥「提出されたWBT型教材の学習履歴ファイル」

学習履歴のファイル名称は、学習者パソコン側で作成されたファイル名(「年月日」.csvon)を元に、「同一ファイル名(年月日)\_01.csv」~「同一ファイル名(年月日)\_02.csv」のように通し番号が振られた名前に変更されます。

＼学習者にファイル/PRAC提出ソフトを使用して、ファイル、PRAC音声、学習履歴を提出させる＼

提出されたファイルは以下のフォルダーに保存されます。

- ファイル : 「ファイル配信サーバー」¥database¥submit¥(先生ユーザー名)¥(クラス名)¥File¥(学習者名)¥年月日・時分¥提出されたファイル
- PRAC音声 : 「ファイル配信サーバー」¥database¥submit¥(先生ユーザー名)¥(クラス名)¥PRAC¥(学習者名)¥年月日・時分¥提出されたPRAC音声
- 学習履歴 (音声教材)  
: 「ファイル配信サーバー」¥L3Stage¥database¥(先生ユーザー名)¥(クラス名)¥HIS¥「学習者ユーザー名」¥AUD¥学習履歴ファイル
- 学習履歴 (WBT型教材)  
: 「ファイル配信サーバー」¥L3Stage¥database¥usr(先生ユーザー名)¥(クラス名)¥HIS¥「学習者ユーザー名」¥WBT¥学習履歴ファイル

## 操作マニュアルを表示する

本マニュアルを表示します。

＼注意＼

先生パソコンに、Acrobat Readerがインストールされている必要があります。

1. アプリケーションの [ マニュアル ] ボタンをクリックします。



Acrobat Readerが起動し、本マニュアルが表示されます。

2. マニュアルを閉じるときは、Acrobat Readerを終了します。

## アプリケーションを起動する

Windowsの各種アプリケーションを起動します。

1. 起動したいアプリケーションボタンをクリックします。



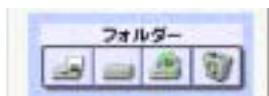
それぞれのアプリケーションが起動します。

2. アプリケーションを終了するときは、それぞれのアプリケーションで終了の操作をします。

＼起動したいアプリケーションのボタンが表示されていないときは、  
[前] ボタンまたは [次] ボタンをクリックし、ページを切り替えます。

## フォルダーボタンの使いかた

次の4つのフォルダーボタンを押すと、フォルダーの内容を表示できます。



[フロッピーディスク] ボタン 

: クリックすると、フロッピーディスクドライブに保存されているファイルやフォルダーが表示されます。クリックする前にフロッピーディスクドライブにフロッピーディスクを入れてください。

[ハードディスク] ボタン 

: クリックすると、先生パソコンの作業用に割り当てられているハードディスク内のファイルやフォルダーが表示されます。

[CD-ROM] ボタン 

: クリックすると、CD-ROMに保存されているファイルやフォルダーが表示されます。クリックする前にCD-ROMドライブにCD-ROMを入れてください。

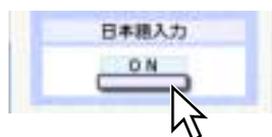
[ごみ箱] ボタン 

: クリックすると、ごみ箱に入っているファイルやフォルダーが表示されます。

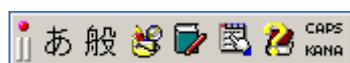
## MS-IMEツールバーを表示する

キーボードの日本語入力モードを切り替えるMS-IMEツールバーを表示します。

1. MS-IMEツールバーが表示されていないときは [ ON ] ボタンをクリックします。



画面右下にMS-IMEツールバーが表示されます。



### ＼注意＼

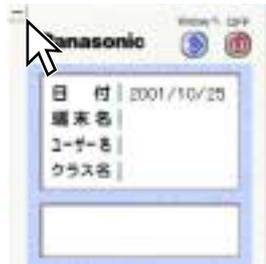
- MS-IMEツールバーはアプリケーションソフトの起動時に自動的に表示される場合もあります。また、MS-IMEツールバーをタスクバーに入れる設定にしている場合は、上記の操作では表示できないことがあります。
- MS-IMEツールバーを移動するには、下図のボタンをマウス左ボタンでドラッグしてください。



## ランチャーパネルを最小化する

ランチャーパネルを最小化して表示します。

1. [ - ] ボタン（最小化ボタン）をクリックします。



ランチャーパネルが最小化され、Windows画面に戻ります。再度ランチャーパネルを表示するには、[先生ソフト] アイコンをクリックします。



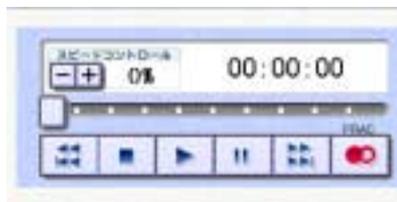
## 開放する教材を確認する

制御パソコンのオンデマンド機能を使って、学習者に開放する教材を先生パソコンで確認します。STRパネルは、学習者と同様に先生パソコンでも全ての機能を使用できますが、ここでは、教材の事前確認に必要な機能のみを説明します。

1. 制御パソコンのサーバー教材選択パネルで教材を選択し、[ プレビュー ] ボタンを押します。

先生パソコンでSTRパネルとサーバー教材選択パネルが表示されます。

2. 先生パソコンのサーバー教材選択パネルで内容を確認したい教材を選択します。



＼サーバー音声教材、アナライザー教材の場合＼

STRパネルのリモコンボタンを操作して、教材を再生します。

[ REW / SKIP BACK ] ボタン 

: 短く（1秒以内）押すと、同じ教材の先頭に戻ります。再生中に1秒以上押し続けると巻き戻しが開始され、ボタンをはなすと再生します。複数の教材を選択しているときは、1回押すたびに前のセンテンスの先頭にスキップします。

[ STOP ] ボタン 

: 再生、巻き戻し、早送りを停止します。

[ PLAY ] ボタン 

: 再生を開始します。

[ PAUSE ] ボタン 

: 再生を一時停止します。

[ FF / SKIP FORWARD ] ボタン 

: 再生中に1秒以上押し続けると早送り開始され、ボタンをはなすとその位置から再生します。複数の教材を選択しているときは、短く（1秒以内）1回押すたびに次のセンテンスの先頭にスキップします。

## ＼WBT型教材の場合＼

WBT型教材を確認するには、Microsoft Internet Explorer ( Ver 5.0以上 ) が先生パソコンにインストールされている必要があります。

教材を選択して、STRパネルの [ PLAY ] ボタンを押すと、Internet Explorerが起動し、WBT型教材が表示されます。以降の教材の操作は、Internet Explorer上で行います。

音声が付されている場合は、リモコンボタンで再生できます。

WBT型教材を終了するには、リモコンボタンの右側にある [ 終了 ] ボタンを押します。

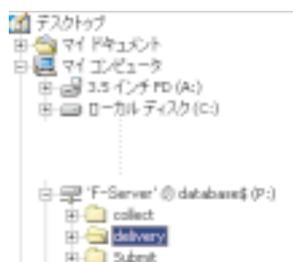
# 配布するファイルを準備する

制御パソコンのファイル配布機能を使って、学習者に送るファイルを先生パソコンで準備します。

1. ランチャーパネルを最小化している状態で、Windowsの各種アプリケーションを使ってファイルを作成します。

事前に作成したファイルをフロッピーディスクやCD-ROMから読み込むこともできます。

2. 作成したファイルを選択し、マウスの右クリックメニューから [コピー] を選択します。
3. タスクバーの [先生ソフト] アイコンをクリックして、ランチャーパネルを表示します。
4. アプリケーションの [レポート] ボタンをクリックし、レポートフォルダーを表示します。



5. レポートフォルダーの下の (" F-Server" の database\$(P:) (初期設定での名称)) の下の delivery フォルダをダブルクリックして開き、マウスの右クリックメニューから [貼り付け] を選択します。  
作成したファイルが、delivery フォルダにコピーされます。

# Windows画面に移る

本ソフトを終了し、Windowsのデスクトップ画面に移ります。

1. [ Windowsへ ] ボタンをクリックします。



本ソフトを終了し、Windowsのデスクトップ画面に移ります。

## 注意

Windowsの画面に移ると、本ソフトを起動するにはデスクトップ上の [ L3 Stage ]

アイコン  をダブルクリックする必要があります。

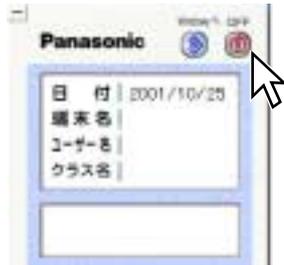
授業中にWindowsの機能を使用する場合は、ランチャーパネルを最小化して使用してください。

(ランチャーパネルを最小化する [⇒140ページ](#) )

# 終了する

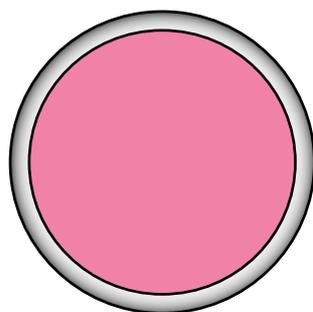
本ソフトを終了し、先生パソコンの電源をOFFにします。

1. [OFF] ボタンをクリックします。



本ソフトが終了し、先生パソコンの電源がOFFになります。

## 補助制御パソコン編



# 操作方法

ここでは、本ソフトの基本的な操作方法について説明します。

### もくじ

起動する .....	147
チームティーチングを行う .....	148

## 起動する

補助制御パソコンは、制御パソコンでチームティーチングモードに入り、1つの授業を2人の先生で分担して進める際に、サブチーム担当の先生が操作するパソコンです。

機能は、制御パソコンの縮小版となり、基本的にサブチームに所属する学習者とのコミュニケーションに限られます。

1. 起動方法は、制御パソコンと同じです。認証入力パネルでは、補助制御パソコンを操作する先生のユーザー名とパスワードを入力します。

トップメニュー画面が表示されます。

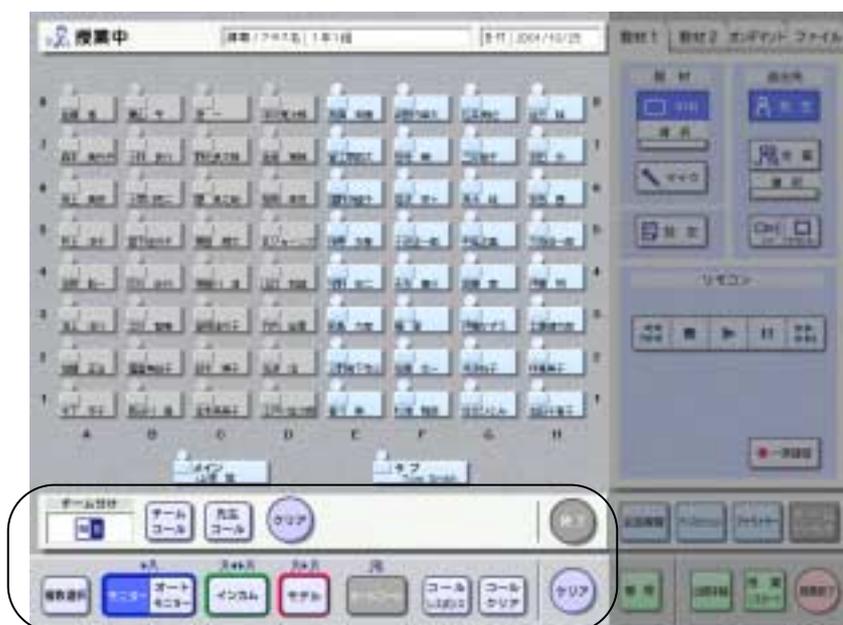


### 注意

- 補助制御パソコンでは、[ログオフ] ボタン、[終了] ボタン以外は使用できません。
- チームティーチングモードに入るためには、補助制御パソコンはトップメニュー画面を表示させておく必要があります。  
補助制御パソコンが起動していない、または認証入力パネルが表示されていると、制御パソコンの[チームティーチング] ボタンが押せませんので、ご注意ください。

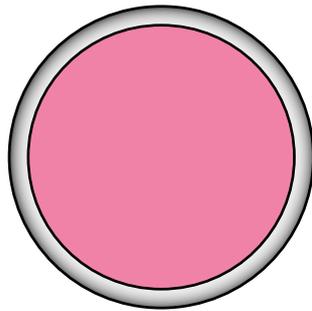
# チームティーチングを行う

1. 制御パソコンで [チームティーチング] ボタンが押されると、チームティーチング開始処理パネルが表示され、準備が整うと授業画面が表示されます。



## 注意

- 補助制御パソコンで操作できるのは、サブチームの学習者に対するコミュニケーションだけです。その他のボタン、タブは操作できません。  
また、コミュニケーションの中でも、[オールコール] ボタンは、補助制御パソコンでは操作できません。制御パソコンからのみ学習者全員に呼びかけることができます。  
各ボタンの操作方法については、「制御パソコン編」(10ページ)をお読みください。
- 補助制御パソコンでは、授業を終了することはできません、制御パソコンでチームティーチングを終了すると、チームティーチング終了処理パネルが表示され、準備が整うとトップメニュー画面に戻ります。



# 付録

## もくじ

授業データについて .....	150
すべての設定・操作を初期状態に戻す .....	153
トラブルシューティング .....	154
エラーメッセージ一覧 .....	158

# 授業データについて

授業データには、出席データ、学習者評価データ、学習者情報データ、アナライザーデータがあります。これらのデータはシステムに蓄積されています。授業データは、システム運用管理の授業データ管理でCSV形式のファイルとして保存できます。編集はMicrosoft Excelで行えます。

ここでは、授業データ管理画面の説明をします。操作のしかたについては「別冊 システムソフト取扱説明書」をお読みください。

CSV ( Comma Separated Value ) 形式  
データベースソフトや表計算ソフトのデータをテキストファイルとして保存する場合の形式のひとつです。

出席データ : 学習者の出席状況が登録されています。出席締め切りを行うと、遅刻者の記録も残すことができます。

学習者評価データ : 学習者の評価が5段階で登録されています。

学習者情報データ : 授業中にメモ入力した学習者個別の情報が登録されています。

アナライザーデータ : アナライザーモードで行った問題演習の回答結果が登録されています。

授業データ管理画面は次の操作で表示できます。

＼注意＼

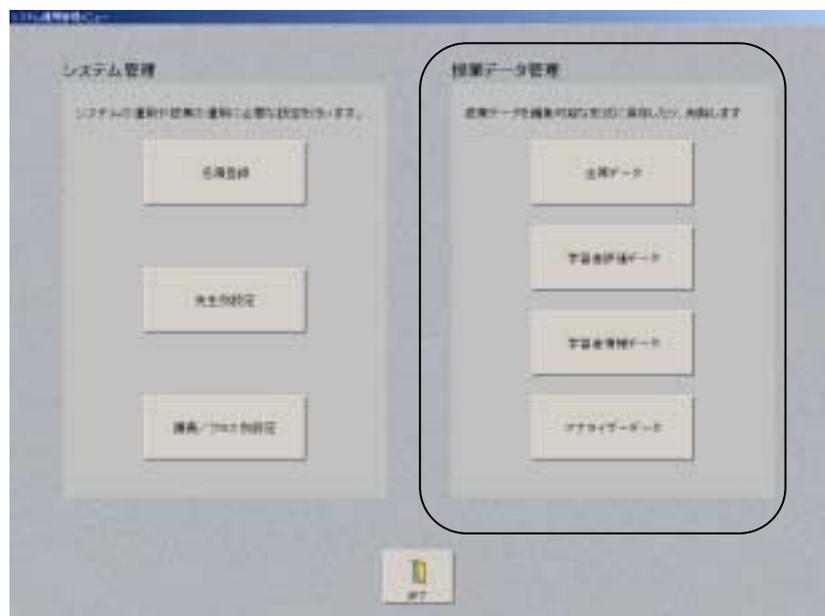
授業データ管理画面を表示できるのは、制御パソコン、補助制御パソコンだけです。その他のパソコンからは表示できません。

1. システムを起動し、トップメニュー画面で [システム運用管理] ボタンを押します。

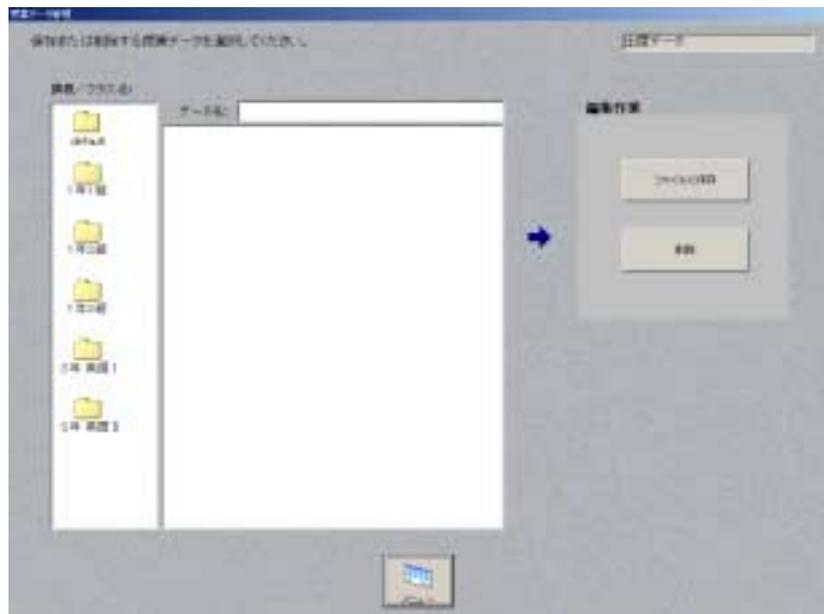


システム運用管理メニュー画面が表示されます。

2. 授業データ管理の中からファイルに保存したいデータの種類の選択します。



授業データ管理画面が表示されます。(例：出席データの場合)



#### 講義/クラス

：リストから講義/クラス名を選択します。ダブルクリックすると、右の欄に授業データの名前が一覧表示されます。defaultフォルダーには、講義/クラス選択パネルで[選択なし]ボタンを押して授業を行ったときの授業データが格納されています。

#### データ選択

：ファイルとして保存したり、削除したりするデータを選択します。授業データの名前は、年月日\_番号(データを登録した年月日+何回目に登録されたかの番号)となります。

#### [ファイルに保存]ボタン

：選択した授業データをファイルとして保存します。押すと、保存パネルが表示されます。保存先とファイル名を入力すると、CSV形式のファイルとして保存されます。

#### [削除]ボタン

：選択した授業データを削除します。押すと、削除確認パネルが表示されます。

#### [メニュー]ボタン

：システム管理運用メニュー画面に戻ります。

## すべての設定・操作を初期状態に戻す

すべての設定や操作を授業開始時の状態に戻します。制御パソコンは授業モードや教材送出などの操作がキャンセルされ、授業開始直後の状態に戻ります。先生パソコンと学習者パソコンはボタン操作がキャンセルされます。  
補助制御パソコンは、トップメニュー画面に戻ります。

### ＼重要＼

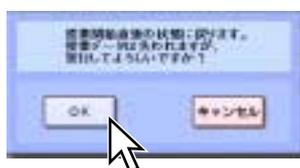
操作できるのは制御パソコンだけです。その他のパソコンからは操作できません。

1. 授業画面の授業コントロール部の [ 授業リスタート ] ボタンを押します。



確認パネルが表示されます。

2. [ OK ] ボタンを押します。



授業を開始した直後の状態に戻ります。授業中に作成したデータは、一部削除されることがあります。

# トラブルシューティング

ここでは、システム運用中に起こったトラブルの対処方法について説明します。トラブルが起こった場合、「確認していただく内容」欄に記載されている手順に従って対処し、再度操作して確認してみてください。

各機器が接続されているか、各カードが装着されているかなどを確認しなければならないときは、必ず「別冊 システムソフト取扱説明書の設置編」をお読みください。

また、対処してもトラブルが解消しないときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

症状	確認していただく内容
音声が聞こえない	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ヘッドセットのプラグがきちんと差し込まれているか確認してください。</li> <li>• ヘッドセットの音量調節つまみ [ PHONES ] で音量を調節してください。</li> </ul>
相手の声が聞こえない	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ヘッドセットの音量調節つまみ [ PHONES ] で音量を調節してください。</li> <li>• 相手側のマイクの音量調節つまみ [ MIC ] で音量を調節してください。</li> </ul> <p>解消しない場合は、接続チェックが必要です。「別冊 システムソフト取扱説明書 設置編」をお読みください。</p>
AV教材の音声がヘッドセットから聞こえない	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 送出設定画面で音声レベルを確認してください。[ ミュート ] ボタンが押されている場合は、再度押し、解除してください。</li> <li>• 該当するAV機器の電源が入っているか確認してください。</li> </ul> <p>解消しない場合は、接続チェックが必要です。「別冊 システムソフト取扱説明書 設置編」をお読みください。</p>
サーバー教材の音声がヘッドセットから聞こえない	<ul style="list-style-type: none"> <li>• プレモニターが聞こえない場合は、先生パソコンが起動しているか確認してください。</li> <li>• オーディオサーバーが正常に起動しているか確認してください。起動していない場合は、制御パソコン、先生パソコン、学習者パソコンを終了し電源を一度切ってから、オーディオサーバーを起動してください。</li> </ul> <p>解消しない場合は、接続チェックが必要です。「別冊 システムソフト取扱説明書 設置編」をお読みください。</p>

ルームスピーカーから音声が出ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>• アンプの電源が入っているか確認してください。</li> <li>• アンプの音量を確認してください。</li> <li>• ティーチャーユニットのスピーカーのスイッチがONになっているか確認してください。</li> <li>• ティーチャーユニットのスピーカー音量つまみで音量を調節してください。</li> </ul> <p>解消しない場合は、接続チェックが必要です。「別冊 システムソフト取扱説明書 設置編」をお読みください。</p>
録音した教材音声が届かない(学習者)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ローカルフォルダーに教材が録音されているか確認してください。</li> <li>• スチューデントユニットの後面にあるPC IN/OUT端子と学習者パソコンのLINE IN/OUT端子がきちんと接続されているか確認してください。</li> </ul> <p>解消しない場合は、接続チェックが必要です。「別冊 システムソフト取扱説明書 設置編」をお読みください。</p>
PRAC音声が聞こえない(学習者)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• スチューデントユニットのマイク音量つまみで音量を調節し、再度PRAC録音してください。</li> <li>• スチューデントユニットの後面にあるPC IN/OUT端子と学習者パソコンのLINE IN/OUT端子がきちんと接続されているか確認してください。</li> </ul> <p>解消しない場合は、接続チェックが必要です。「別冊 システムソフト取扱説明書 設置編」をお読みください。</p>
操作時のチャイムが聞こえない	<p>制御パソコンの授業管理機能にある操作チャイム音の設定がONになっているか確認してください。</p>
教材再生中に音切れする、ノイズが聞こえる	<p>ヘッドセットのプラグをきちんと差し込んでください。</p> <p>解消しない場合は、接続チェックが必要です。「別冊 システムソフト取扱説明書 設置編」をお読みください。</p>
音声がハウリングする	<p>送出設定パネルで教材音声レベルを確認してください。</p>
パソコンの画面に映像が映らない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ディスプレイの電源が入っているか確認してください。</li> <li>• ケーブルがきちんと接続されているか確認してください。</li> </ul>
教材映像がVPやサブモニターに映らない	<p>該当するAV機器の電源が入っているか確認してください。</p> <p>解消しない場合は、接続チェックが必要です。「別冊 システムソフト取扱説明書 設置編」をお読みください。</p>

出席表示にならない学習者アイコンがある	<ul style="list-style-type: none"> <li>• HUBの電源が入っているか確認してください。</li> <li>• HUBの各ポートにきちんとケーブルが接続されているか、確認してください。</li> <li>• 出席表示にならない学習者のパソコンの後面にLANケーブルがきちんと接続されているか確認してください。</li> </ul> <p>解消しない場合は、接続チェックが必要です。「別冊 システムソフト取扱説明書 設置編」をお読みください。</p>
通信エラーが表示される学習者アイコンがある	<ul style="list-style-type: none"> <li>• HUBの電源が入っているか確認してください。</li> <li>• HUBの各ポートにきちんとケーブルが接続されているか確認してください。</li> <li>• 通信エラーが表示される学習者のパソコンの後面にLANケーブルがきちんと接続されているか確認してください。</li> </ul> <p>解消しない場合は、接続チェックが必要です。「別冊 システムソフト取扱説明書 設置編」をお読みください。</p>
ファイルが配布できない学習者がいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ファイルが配布できない学習者のパソコンのハードディスク残量を確認してください。</li> <li>• 過去に送った同じ名前のファイルを学習者が選択したり、開いていないか確認してください。</li> </ul> <p>解消しない場合は、接続チェックが必要です。「別冊 システムソフト取扱説明書 設置編」をお読みください。</p>
ファイルが回収できない学習者がいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ファイルが回収できない学習者のレポートフォルダーにファイルがあるか確認してください。</li> <li>• 学習者がレポートフォルダー内の回収対象のファイルを選択したり、ファイルを開いていないか確認してください。</li> </ul> <p>解消しない場合は、接続チェックが必要です。「別冊 システムソフト取扱説明書 設置編」をお読みください。</p>
PRAC音声回収できない学習者がいる	<p>回収できない学習者のローカル1～3にPRAC音声が存在するか確認してください。</p> <p>解消しない場合は、接続チェックが必要です。「別冊 システムソフト取扱説明書 設置編」をお読みください。</p>
デバイスの取り外しの警告パネルが表示される	<ul style="list-style-type: none"> <li>• デバイス名がL3StageTSユニットと表示されている場合は、ティーチャーユニットのUSBケーブルの接続を確認してください。</li> <li>• デバイス名がL3Stageプロセッサユニットと表示されている場合は、プロセッサユニットのUSBケーブルの接続を確認してください。「別冊 システムソフト取扱説明書 設置編」をお読みください。</li> </ul>

制御パソコン、補助制御パソコンの操作ができない	<ul style="list-style-type: none"> <li>• タッチパネルディスプレイの電源を入れてください。</li> <li>• タッチパネルディスプレイとパソコンの接続を確認してください。</li> </ul>
タッチパネルディスプレイの反応が悪い	<ul style="list-style-type: none"> <li>• タッチパネルディスプレイのキャリブレーションを調整してください。タッチパネルディスプレイの取扱説明書をお読みください。</li> </ul>
リモコン操作できないAV機器がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>• AV機器の電源が入っているか確認してください。</li> <li>• AV機器を直接操作してみてください。動作しなければAV機器の故障です。動作する場合は、接続や設定を見直す必要があります。「別冊 システムソフト取扱説明書 設置編」をお読みください。</li> </ul>
ランチャーパネルでアプリケーションが起動しない	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 制御パソコンの学習者管理機能で操作ロックが設定されていないか確認してください。ロックされている場合は、ロックを解除してください。</li> <li>• アプリケーションソフトがインストールされているか確認してください。インストールされていない場合は、アプリケーションの追加を行ってください。</li> </ul>
コミュニケーションと連動して、画面転送ができない	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 画面転送設定パネルの「画面転送」の項目が「教材 + Comm.」がON状態になっているか確認してください。</li> <li>• 教材送出中 / ディスカッション中 / 会話練習中 / チームティーチング中でないか確認してください。</li> </ul>
教材送出と連動して、画面転送ができない	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 画面転送設定パネルの「画面転送」の項目が「OFF」選択されていないか確認してください。</li> </ul>
画面転送設定パネルの項目を変更できない	<ul style="list-style-type: none"> <li>• コミュニケーションおよび教材送出の画面転送を行っていないか確認してください。画面転送を行っている場合は、解除してください。</li> </ul>
指定した学習者パソコンのキーボード・マウスの制御ができない	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 制御パソコンの管理「操作ロック」でいずれかのロックがかかっていないか確認してください。ロックされている場合は、ロックを解除してください。</li> </ul>

# エラーメッセージ一覧

メッセージ内容	説明・対処方法など
認証を拒否されました。 Windows 画面に戻ります。	[OK] ボタンを押して、パネルを閉じてください。 システムを再起動し、名簿登録されている正しいユーザー名、パスワードを入力してください。
複数選択可能な人数を超えています	[OK] ボタンを押して、パネルを閉じてください。 同時にコミュニケーションできるインカム、モデルの人数は10人までです。
プロセッサユニットとの通信中に、エラーが発生しました。電源、ケーブルの接続を確認してください。	[OK] ボタンを押して、パネルを閉じてください。 プロセッサユニットの電源が入っているか、ケーブルがきちんと接続されているかを確認してください。 詳しくは、プロセッサユニットの取扱説明書をお読みください。
オーディオサーバー/ファイル配信サーバーの接続中に、エラーが発生しました。サーバーの状態、LANの接続を確認してください。	[OK] ボタンを押して、パネルを閉じてください。 システムを終了し、サーバーが正常に起動されているか、HUBの電源が入っているか、LANケーブルがきちんと接続されているかなどを確認してください。 詳しくは、「別冊 システムソフト取扱説明書」、プロセッサユニットの取扱説明書をお読みください。
指定した学習者の情報は扱えません。認証エラー者を許可したか、「認証無し・座席表を使用しない」設定で授業を運用中です。	[OK] ボタンを押して、パネルを閉じてください。 認証を正常に行わなかったり、システム運用管理画面で「認証無し・座席表を使用しない」を設定して授業を行っている場合、ユーザー名が特定できないため、学習者の情報は取り出せません。
同時に発言できる人数を超えています	[OK] ボタンを押して、パネルを閉じてください。 同時に発言者として指定できるのは10人までです。
選択したフォルダーの中に、ファイルが存在しないものがあります。 空のフォルダーを含む場合、配布を行うことはできません。	[OK] ボタンを押して、パネルを閉じてください。 選択したフォルダーから、空のフォルダーを除いて配布するファイルを選択し直し、再度配布を行ってください。
選択したフォルダーの階層が深すぎます。フォルダー階層数は以下の数以下にしてください。 最大階層数：	[OK] ボタンを押して、パネルを閉じてください。 表示された階層数以内になるように、上位のフォルダーを選択し直し、再度配布を行ってください。 (最大階層数は、エラーパネル上に表示されます)

選択したファイルおよびフォルダーに含まれるファイル数が許容範囲を超えています。選択するファイル数を削減してください。最大ファイル数：	[OK] ボタンを押して、パネルを閉じてください。 表示されたファイル数以内になるようにファイルの数を減らして選択し直し、再度配布を行ってください。 (最大ファイル数は、エラーパネル上に表示されます)
選択したファイルの中にサイズが0のものがあります。サイズが0のファイルを含む場合、配布を行うことはできません。	[OK] ボタンを押して、パネルを閉じてください。 選択したファイルからサイズが0のファイルを除いて配布するファイルを選択し直し、再度配布を行ってください。
回収に失敗しました	[OK] ボタンを押して、パネルを閉じてください。 ファイル配信サーバーのデータディスクの空き容量を十分確保してから、再度回収を行ってください。
実行できる問題数を超えています。新しい問題を実行するには、いったんアナライザーを終了してください。	[OK] ボタンを押して、パネルを閉じてください。 1回のアナライザーで実行できる問題数は200問までです。
チームティーチングを開始できません。補助制御パソコンの状態を確認してください。	[OK] ボタンを押して、パネルを閉じてください。 チームティーチングモードは、補助制御パソコンがトップメニュー画面を表示しているときに起動できます。 補助制御パソコンの電源が切れている、またはシステム運用管理画面で設定を行っている場合は、補助制御パソコンを正常に起動し、トップメニュー画面を表示させて、再度[チームティーチング]ボタンを押してください。
制御パソコンが、異常終了しました。 チームティーチングモードを強制終了します。	[OK] ボタンを押して、パネルを閉じてください。 制御パソコンが復旧するまでそのままお待ちください。
デバイスが準備されていません	[OK] ボタンを押して、パネルを閉じてください。 指定したドライブにフロッピーディスクやCD-ROMをセットしてから、改めてドライブを指定してください。
EdViNS2システムとの通信中にエラーが発生しました。電源、ケーブルの接続を確認してください。	[OK] ボタンを押して、パネルを閉じてください。 授業を終了し、EdViNS2システム(株式会社 アイ・ディ・ケイ 社製)本体の電源が入っているか、ケーブルが正しく接続されているかなどを確認して、再度授業を開始してください。

**松下電器産業株式会社**

**AV&セキュリティビジネスユニット**

〒223-8639 横浜市港北区綱島東四丁目3番1号 電話 フリーダイヤル 0120-878-410

© 2003 Matsushita Electric Industrial Co.,Ltd. All Rights Reserved.

3TR001628AAA  
avM0203-0